

令和元年度 第1回新潟市水道事業経営審議会
次 第

日 時 令和元年8月6日(火) 午後2時00分から
場 所 新潟市水道局 研修センター2階

1 開 会

2 議 事

(1)新・マスタープラン平成30年度事業取組の評価について

3 報告事項

(1)条例改正等について

- ・新潟市水道局企業職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部改正について
- ・水道法改正(更新制度導入)に伴う新潟市給水条例の一部改正について

新潟市水道事業経営審議会委員名簿

(任期：平成 29 年 10 月 1 日～令和元年 9 月 30 日)

※ 50 音順，敬称略

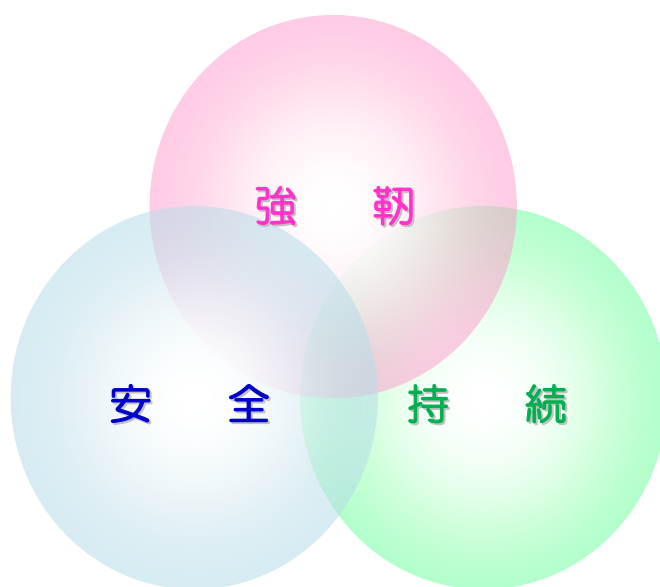
氏 名	肩 書
いけだ のりよし 池田 文美	池田公認会計士事務所 公認会計士
うだ たかゆき 宇田 隆幸	新潟国際情報大学 情報文化学部 情報システム学科教授
おおぬき みねお 大貫 三子男	公益社団法人 日本水道協会 総務部長
おだ としひろ 小田 敏博	一般財団法人 新潟経済社会リサーチセンター 理事 事務局長
かとう せつこ 加藤 節子	公募委員
きしなみ くみこ 岸波 久美子	公募委員
きむら ゆみ 木村 由美	新潟商工会議所 女性会 理事
こうろ かずひろ 紅露 一寛	新潟大学 工学部教授
やまだ けん 山田 健	北陸ガス株式会社 企画部次長
ほんま ひでこ 本間 秀子	新潟市消費者協会新潟支部 理事

※ 山田委員の任期は令和元年 6 月 27 日～令和 3 年 2 月 28 日

新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～

中期実施計画（平成30年度）の取り組み状況

概要版



令和元年6月

新潟市水道局

目 次

趣旨，事業評価概要・・・P2

事業・取り組み担当課1次評価結果一覧・・・P3

1次評価結果概要・・・P4～P5

2次評価結果概要・・・P6

事業・取り組みの実施状況・・・P7～P10

重点目標の推移・・・P11～13

平成30年度の評価結果，
取組み状況を報告します。



水太郎

趣旨

本市では、平成27年3月に将来にわたって「すべてのお客さまに信頼される水道」を基本理念とした、「新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～」(平成27年度～平成36年度)を策定し、事業を推進しています。また、目指す方向性実現のため、具体的な事業・取り組みと、財政計画などを定めた「新・マスタープラン実施計画」(計画期間：前期3年、中期3年、後期4年)を策定し、毎年度行う事業評価の結果を踏まえ、今後の事業に活用していくこととしています。

事業評価の概要

「新・マスタープラン前期実施計画」は、3つの方向性「安全」「強靱」「持続」を実現するために、8つの施策を設け、31の「事業取り組み」を行っています。評価については、1次評価は所管課で「事業取り組み」ごとに、効率性、有効性の評価をし、2次評価は外部機関の水道事業経営審議会で次年度以降の方向性を評価します。

1次評価

効率性総合評価

効率性 A	・・・ 非常に高い
効率性 B	・・・ 高い
効率性 C	・・・ 普通
効率性 D	・・・ 低い
効率性 E	・・・ 非常に低い

有効性総合評価

有効性 A	・・・ 非常に高い
有効性 B	・・・ 高い
有効性 C	・・・ 普通
有効性 D	・・・ 低い
有効性 E	・・・ 非常に低い

2次評価

方向性総合評価

拡充	・・・ 今まで以上に力を入れて事業に取り組むことが適当
維持	・・・ 今までどおり事業に取り組むことが適当
終了(完了)	・・・ 事業・取り組みは終了した
改善・見直し	・・・ 事業内容の改善や見直しを検討し取り組むことが適当
縮小	・・・ 事業の取り組み規模を縮小することが適当

事業・取り組み担当課・1次評価結果一覧

方向性	施策	事業・取り組み	担当課	効率性	有効性	
安全でおいしい水道水の供給 《安全》	I 水質管理の充実・強化	I-1 水源水質の監視	水質管理課	C	C	
		I-2 水安全計画の充実・適切な運用	水質管理課	C	C	
		I-3 水質管理体制の強化	水質管理課	C	C	
		I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	水質管理課 (浄水課)	C	C	
		I-5 分かりやすい水質情報の提供	水質管理課	B	C	
	II 給水装置における 水質保持	II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	管路課	B	B	
		II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	管路課	B	B	
		II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	管路課	B	C	
強靱な施設・体制による給水確保 《強靱》	III 水道施設の計画的更新	III-1 浄配水施設の計画的更新	計画整備課	C	C	
		III-2 管路施設の計画的更新	計画整備課	C	B	
		III-3 鉛給水管の計画的更新	管路課	C	C	
	IV 災害対策・体制の強化	IV-1 浄配水施設の計画的耐震化	計画整備課	-	-	
		IV-2 管路施設の計画的耐震化	計画整備課	C	C	
		IV-3 重要施設向け配水管の耐震化	計画整備課	B	A	
		IV-4 配水管網のブロック化の推進	管路課	C	C	
		IV-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	管路課	A	A	
		IV-6 事故・災害時における復旧体制の強化	経営管理課	C	C	
	環境の変化に柔軟に対応した 健全な事業運営の持続 《持続》	V 経営基盤の強化	V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	計画整備課	C	C
			V-2 定員・給与の適正化	総務課	C	B
			V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	経営管理課	C	C
V-4 遊休資産の有効活用			経営管理課	C	C	
V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施			経営管理課	C	C	
V-6 水道事業経営審議会の効果的運用			経営管理課	C	C	
VI 積極的な情報提供と お客さまニーズの把握		VI-1 戦略的な広報の実施	総務課	-	-	
		VI-2 お客さまの意見・要望の把握	総務課	C	D	
		VI-3 分かりやすい経営情報の開示	経営管理課	C	C	
		VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	経営管理課	C	C	
VII 技術・知識を有する 人材の確保と育成		VII-1 人材育成と専門性の強化	総務課	B	C	
		VII-2 諸外国との水道技術研究交流	総務課	C	A	
VIII 環境に配慮した事業運営		VIII-1 建設副産物の再利用促進	技術管理室	C	A	
		VIII-2 水道局環境計画の策定と推進	経営管理課	C	C	

1次評価結果の概要

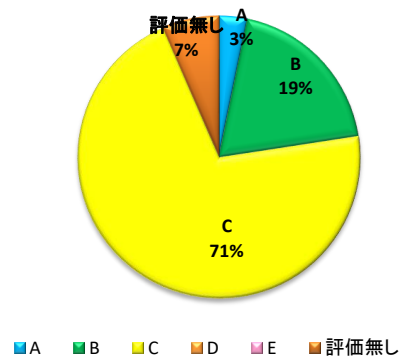
1. 1次評価結果の集計

(1) 効率性評価

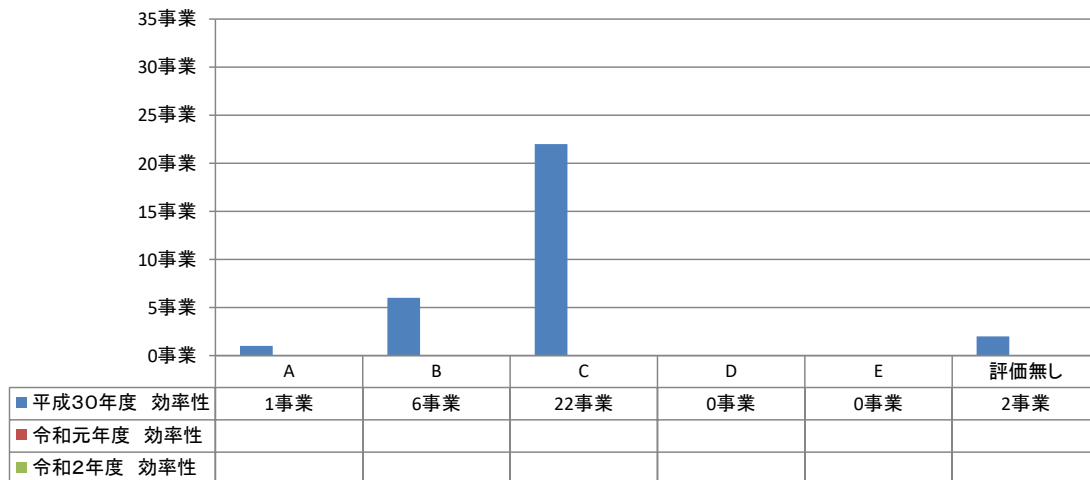
評価値	事業数	備考
A	1事業	Ⅳ-5大ブロック間の相互連絡管の整備
B	6事業	
C	22事業	
D	0事業	
E	0事業	
—	2事業	
計	31事業	

効率性評価は、当該事業・取組みが、コストに見合った結果が出ているか、実施手段が効率的であったか評価するものです。評価全体では、評価点9～10点の「A非常に高い」評価事業は1事業、3%、評価点7～8点の「B高い」評価事業は6事業、19%、5～6点の「C普通」評価事業は22事業、71%でした。なお、平成30年度に実施しなかった2事業については評価対象外としています。よって、29事業中29事業、全ての事業が効率性の目標を達成しました。

有効性評価結果割合
(評価対象31)



効率性評価結果の経年変化

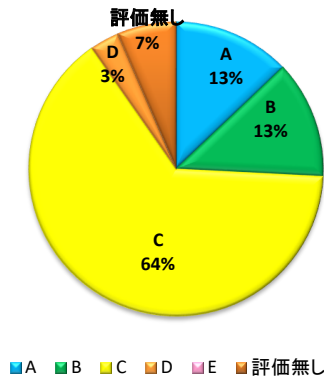


(2)有効性評価

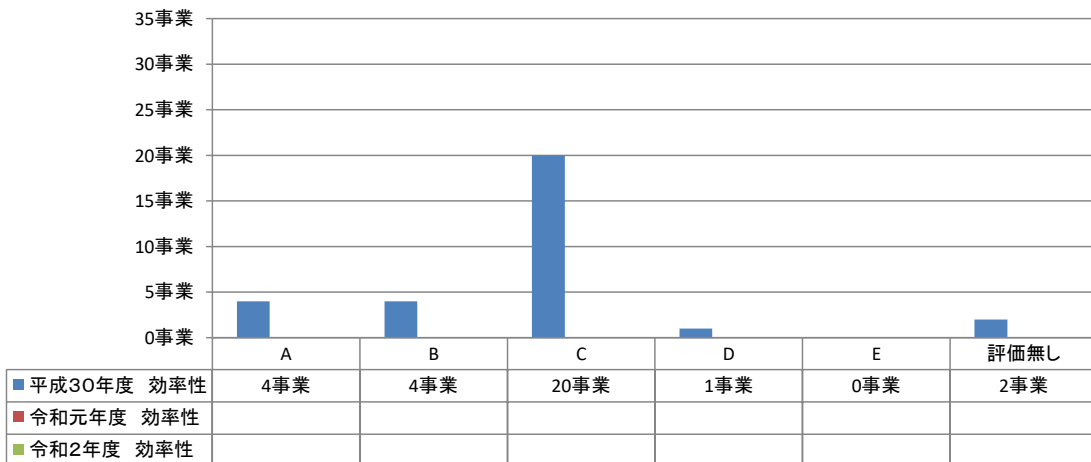
評価値	事業数	備考
A	4事業	Ⅳ-3重要施設向け配水管の耐震化 Ⅶ-2諸外国との水道技術研究交流 Ⅶ-2諸外国との水道技術研究交流 Ⅷ-1建設副産物の再利用促進
B	4事業	
C	20事業	
D	1事業	Ⅵ-2お客さまの意見・要望の把握
E	0事業	
—	2事業	
計	31事業	

有効性評価は、重点目標等を達成するために有効であったか、期待する結果・効果（成果）は得られたか評価するものです。有効性総合評価の結果は、評価9～10点の「A非常に高い」評価事業は4事業、12%、7～8点の「B高い」評価事業は4事業を合わせると8事業、24%でした。5～6点の「C普通」評価事業は20事業、66%、3～4点の「D低い」評価事業は1事業、3%でした。なお、平成30年度に実施しなかった2事業については評価対象外としています。よって、29事業中28事業、97%の事業が有効性の目標を達成しました。

有効性評価結果割合
(評価対象31)



有効性評価結果の経年変化



2次評価結果の概要

1. 2次評価結果の目的

「すべてのお客さまに信頼される水道」であるためには、お客さまの視点として、外部機関である水道事業経営審議会
で、各事業取り組みの実施状況、目標の達成度などを確認したうえで、効率性、有効性、についての評価を受け、今後
の方向性を明確にしていくことを目的としています。

2. 2次評価結果の集計

評価値	拡充	維持	終了（完了）	改善・見直し	縮小	計
事業数						〇事業

3. 改善・見直しとした事業

事業・取り組み		効率性 評 価	有効性 評 価	経営審議会総評	所管課

事業・取り組みの実施状況

安全でおいしい水道水の供給

すべてのお客さまに、いつでもどこでも、安全でおいしい水道水を供給する水道を目指します。

施策Ⅰ 水質管理の充実・強化

主な取り組み

- I-1 水源水質の監視
 ・水源の監視及び調査の実施
 I-2 水安全計画の充実・適切な運用
 ・水安全計画の評価・見直しの実施
 I-3 水質管理体制の強化
 ・水道GLPの維持・更新
 ・人材育成及び技術継承

- I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理
 ・独自管理目標値による水質管理
 I-5 分かりやすい水質情報の提供
 ・啓発活動の継続
 ・分かりやすい情報提供

I-1 水源水質の監視	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目(評価指標)		目標	実績
河川水質事故による水道水の影響		0%	0%
目標設定項目(評価指標)		目標/目標累計	実績/実績累計
水道原水の水質調査		2回/2回	2回/2回
浄水施設での対応が困難な物質の監視		4回/4回	4回/4回

I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目(評価指標)		目標	実績
農薬濃度管理目標達成率		100%	100%
総トリハロメタン濃度管理目標達成率		100%	98.0%
残留塩素管理目標達成率		91%	87%
臭気強度管理目標達成率		100%	100%

I-2 水安全計画の充実・適切な運用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目(評価指標)		目標	実績
浄水場「水安全計画」の評価実施率		100%	100%

I-5 分かりやすい水質情報の提供	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目(評価指標)		目標/目標累計	実績/実績累計
体験型広報年間実施数		12回/12回	12回/12回

I-3 水質管理体制の強化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目(評価指標)		目標	実績
検査機器の保守点検実施率		100%	100%
教育訓練実施率		100%	100%
目標設定項目(評価指標)		目標/目標累計	実績/実績累計
水質検査の公表回数		12回/12回	12回/12回



施策Ⅱ 給水装置における水質保持

主な取り組み

- II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化
 ・教育委員会との連携
 II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施
 ・民間清掃会社との連携
 ・貯水槽施設衛生管理訪問指導業務の実施

- II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上
 ・指定給水工事事業者に対し講習会参加を要請
 ・適切な施工確保のため、講習内容を見直し実施

II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	評価結果	効率性 B	有効性 B
目標設定項目(評価指標)		目標/目標累計	実績/実績累計
学校施設の水飲み水栓の直結給水化率		前年度(65%)以上	66.1%/66.1%

II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目(評価指標)		目標	実績
給水装置に係る事故件数		0件	0件
指定給水装置工事事業者講習会参加率		前年度(78%)以上	75.0%

II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	評価結果	効率性 B	有効性 B
目標設定項目(評価指標)		目標	実績
貯水槽清掃実施率(簡易専用水道)		93.3%	95.6%
貯水槽清掃実施率(小規模貯水槽水道)		65.9%	70.5%
貯水槽清掃実施率(全体清掃率)		77.0%	80.9%

強靱な施設・体制による給水の確保

自然災害等による被災を最小限にとどめ、断水等が発生した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道を目指します。

施策Ⅲ 水道施設の計画的更新

主な取組み

Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新 <ul style="list-style-type: none"> 阿賀野川浄水場整備事業 ポンプ設備更新工事の実施（平成30年度完了予定） 自家発電設備更新工事の実施（平成30年度完了予定） 粉末活性炭注入設備更新工事の実施（平成30年度完成予定） 電気設備更新工事の実施（令和元年度完了予定） 監視制御設備更新工事の実施（令和元年度完了予定） 配水場整備事業 竹尾配水ポンプ電気設備更新工事の実施（平成30年度完了予定） 南浜電気設備等更新工事の実施（令和2年度完了予定） 経年劣化した設備の個別整備 	Ⅲ-2 管路施設の計画的更新 <ul style="list-style-type: none"> 基幹管路更新 配水支管更新 Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新 <ul style="list-style-type: none"> 小口径老朽管更新（ガス工事競合） 小口径老朽管更新（局単独工事） 他工事に関連する鉛給水管更新（下水道工事） 鉛給水管更新（戸別） 検定満期メータの取替に伴う更新
---	--

Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
阿賀野川浄水場施設整備事業		実施	実施
配水場施設整備事業		実施	実施

Ⅲ-2 管路施設の計画的更新	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
基幹管路更新延長 ※評価指標の延長は発注延長（計画値）を使用		3,300m / 3,300m	3,269m / 3,269m
配水支管更新延長 ※評価指標の延長は発注延長（計画値）を使用		13,500m / 13,500m	14,589m / 14,589m

Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
鉛給水管率		前年度(5.2%)以下	5.5%/5.5%



施策Ⅳ 災害対策・体制の強化

主な取組み

Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化 <ul style="list-style-type: none"> 構内水管 阿賀野川浄水場構内水管の耐震化および配水池耐震補強の実施（令和元年度完了予定） Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化 <ul style="list-style-type: none"> 基幹管路更新事業・配水支管更新事業に併せ管路施設の耐震化を実施 Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化 <ul style="list-style-type: none"> 計画に基づき重要施設向け配水管の耐震化を実施（行政機関：0施設 医療機関3施設） 	Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進 <ul style="list-style-type: none"> 基幹管路に併せた小ブロックの構築（小ブロック構築数0ブロック） Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備 <ul style="list-style-type: none"> 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 青山浄水場系～南山配水場系連絡管整備 Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> 各種災害時マニュアルの作成・更新 マニュアルに基づく訓練の実施 拠点給水所の周知方法の検討・実施
---	--

Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化	評価結果	—	—
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
【建築物】（完了数/全計画数）		0/2 / 0/2	—
【土木構造物】（完了数/全計画数）		3/13 / 3/13	—

Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
小ブロック構築率		93.3%/93.3%	81.5%/81.5%

Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
管路耐震適合率 ※評価指標の進捗は、工事の発注により行う		69.3% / 69.3%	68.6% / 68.6%
基幹管路耐震適合率 ※評価指標の進捗は、工事の発注により行う		63.5% / 63.5%	63.6% / 63.6%

Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	評価結果	効率性 A	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
相互連絡管整備延長（巻～戸頭系）		690m / 3,350m	1,262.7m / 3,937.3m
相互連絡管整備延長（青山～南山系）		500m / 500m	511.7m / 511.7m

Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化	評価結果	効率性 B	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
重要施設向け配水管の耐震化 ※評価指標の進捗は、工事の発注により行う		2施設 / 2施設	3施設（見込み） / 3施設（見込み）

Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
各種マニュアルの作成・見直し		実施	実施
マニュアルに基づく訓練の実施		実施	実施
拠点給水所の周知方法の検討・実施		実施	実施
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
給水車用常設注水設備の整備		—	—

環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続

給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道を目指します。

施策V 経営基盤の強化

主な取組み

<p>V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浄配水施設再編基本構想策定業務 <p>V-2 定員・給与の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員の適正化・・・再任用職員を含めた定員管理を実施するとともに、引き続き業務の見直しを図り、定員の適正化を進める ・給与の適正化・・・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施 <p>V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな業務委託に向けた調査・検討 	<p>V-4 遊休資産の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電用地としての有償貸付準備 ・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 <p>V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料金体系の調査・研究、見直し案の作成 ・料金改定の必要性、時期、水準の検討 <p>V-6 水道事業経営審議会の効果的運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道事業経営審議会開催（3回/年） ・新・マスタープランの事務事業に対する2次評価の実施
--	--



V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
施設整備計画等の策定状況		施設整備課題の整理	実施

V-4 遊休資産の有効活用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
有効活用の調査・研究・施設有効活用の実施		情報収集調査・研究	実施

V-2 定員・給与の適正化	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
職員数		351人以下	350人

V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
料金制度見直し案の調査・研究		調査・研究	実施

V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
新たな業務委託に向けた調査・検討		実施	実施

V-6 水道事業経営審議会の効果的運用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
新・マスタープラン事業実施状況に対する意見・提言の聴取と反映		実施	実施

施策VI 積極的な情報提供とお客さまニーズの把握

主な取組み

<p>VI-1 戦略的な広報の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自イベント・・・施設見学など ・お客さまに直接働きかける広報・・・災害パネル展示、出前講座など ・デジタルメディアを活用する広報・・・ホームページなど ・紙媒体による広報・・・広報紙、検針票裏面など ・漫画を活用する広報・・・小学生向けパンフレット、工事看板など ・広報紙（水先案内）の有料広告掲載による、水道料金以外の収入確保 	<p>VI-2 お客さまの意見・要望の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公募による水道モニターで研修会や施設見学など4回開催 <p>VI-3 分かりやすい経営情報の開示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料金設定の仕組み（水道料金計算方法等）及びコスト情報の提供・・・ホームページで公表 ・経営効率化に関する取組情報の提供・・・広報誌「水先案内」に掲載 <p>VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保管管理、検査、有効利用等の情報提供を継続的に実施
---	---

VI-1 戦略的な広報の実施	評価結果	—	—
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
お客さまアンケートにおける広報紙「水先案内」の認知度		72%以上	—

VI-3 分かりやすい経営情報の開示	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
料金設定の仕組み（水道料金計算方法等）およびコスト情報の提供（ホームページおよび水先案内に掲載）		1回/年以上	2回
経営効率化に関する取組情報の提供（ホームページおよび水先案内に掲載）		1回/年以上	2回

VI-2 お客さまの意見・要望の把握	評価結果	効率性 C	有効性 D
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
お客さまアンケート調査の実施		実施	未実施
水道モニター活動回数（モニター会議、施設見学会等開催数）		4回	4回

VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
汚泥保管施設における放射線量測定結果の情報開示の継続		開示	開示
放射性物質濃度の分析調査結果の情報開示の継続		開示	開示

施策Ⅶ 技術・知識を有する人材の確保と育成

主な取組み

Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化

- ・技術系新規採用職員の独自採用，教育配転の実施
- ・職員研修基本計画の見直し実施
- ・各種研修は研修計画に基づき継続的に実施
- ・水道研修センターの効果的運用

Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流

- ・水道技術国際シンポジウム
- ・自治体水道国際展開プラットフォーム
- ・国際水協会世界会議
- ・国際インターンシップ受け入れ（新潟大学との共同事業）

Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
年間内部研修実施時間 (延べ年間研修時間/年度末職員数)		16.5時間	15.5時間

Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流	評価結果	効率性 C	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
国際研修等への参加人数		4人/4人	8人/8人

施策Ⅷ 環境に配慮した事業運営

主な取組み

Ⅶ-1 建設副産物の再利用促進

- ・改良土の利用促進
建設リサイクル法に基づき，アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化（再生率100%）
建設発生土について，埋戻しに適する発生土は再利用し，適さない発生土を改良し，埋戻し材としての再利用を進める。

Ⅶ-2 水道局環境計画の策定と推進

- ・再生可能エネルギー等の有効活用
- ・環境報告書の作成・公表
- ・省エネルギー対策の推進

Ⅶ-1 建設副産物の再利用促進	評価結果	効率性 C	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
建設副産物のリサイクル率		40.0%	68.0%

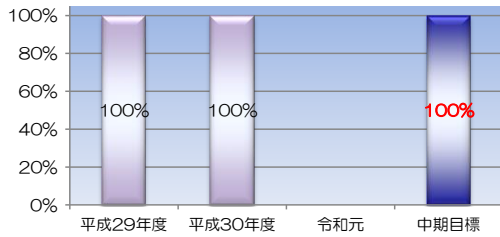
Ⅶ-2 水道局環境計画の策定と推進	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
水道局環境報告書の作成・公表		実施	実施



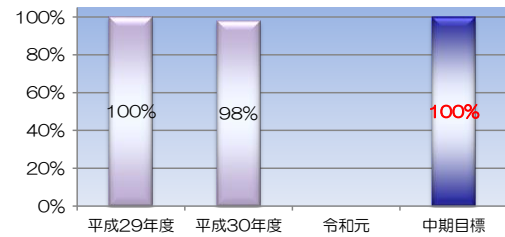
重点目標の推移

■安全でおいしい水道水の供給

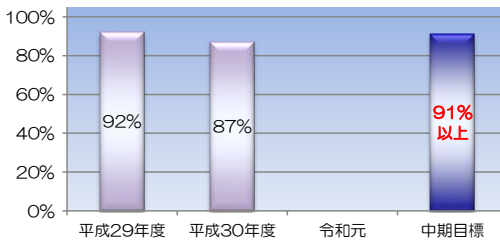
・農薬濃度管理目標達成率



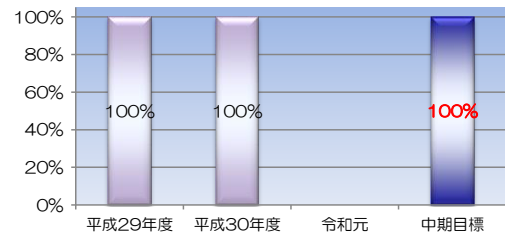
・総トリハロメタン濃度管理目標達成率



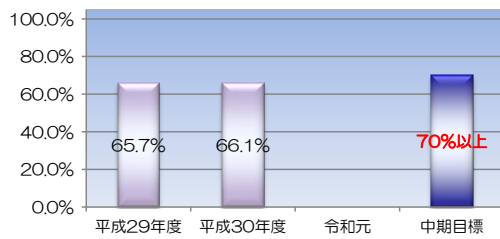
・残留塩素管理目標達成率



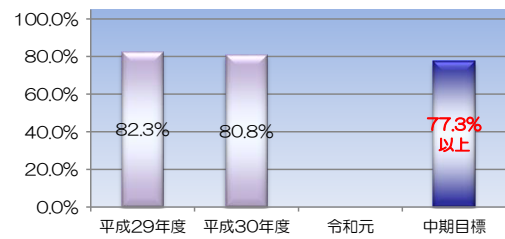
・臭気強度管理目標達成率



・学校施設水飲み水栓の直結給水化率

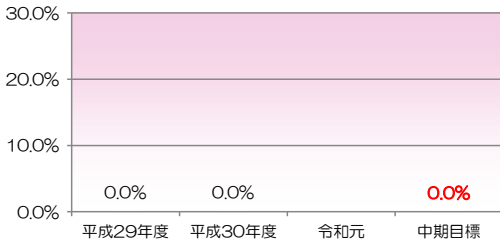


・貯水槽清掃実施率

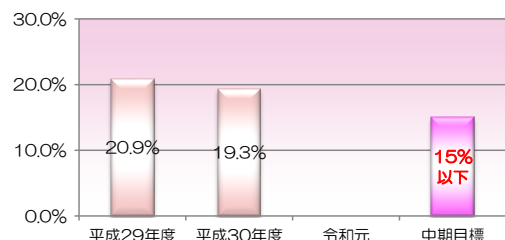


■強靱な施設・体制による給水の確保

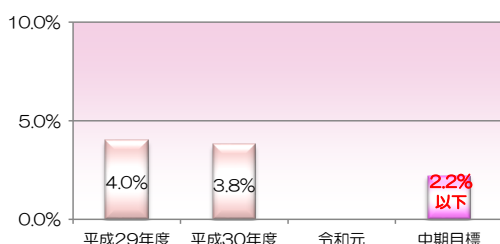
・老朽化浄水施設率



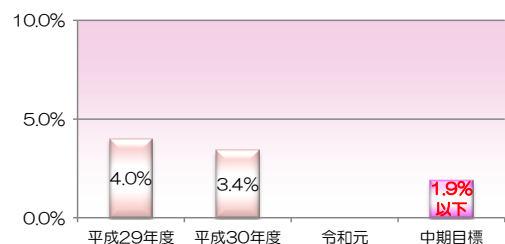
・老朽化設備率



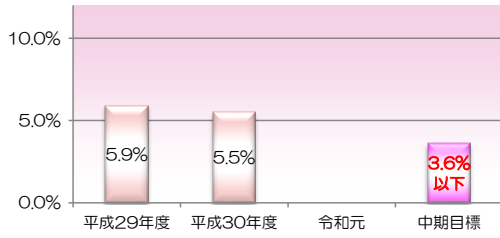
・老朽化管路率 ※1



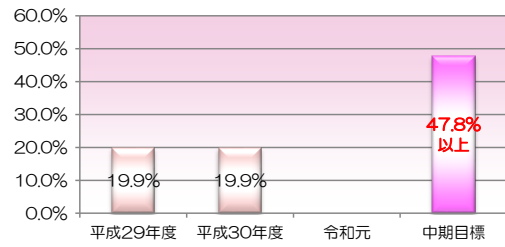
・老朽化基幹管路率 ※1



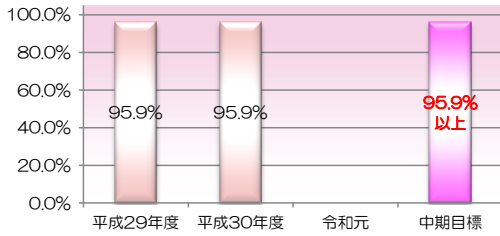
・鉛製給水管率



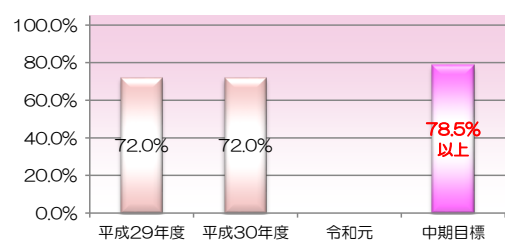
・浄水施設耐震率



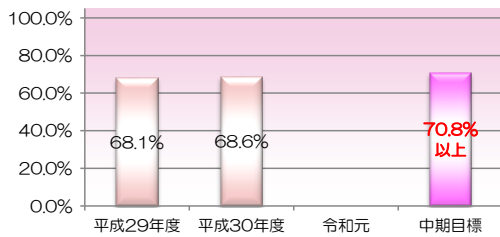
・ポンプ所耐震施設率



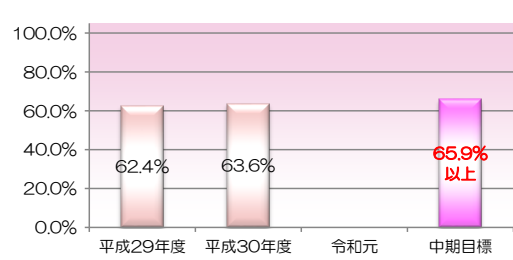
・配水池耐震施設率



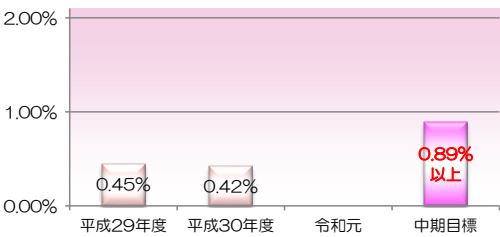
・管路耐震適合率 ※1



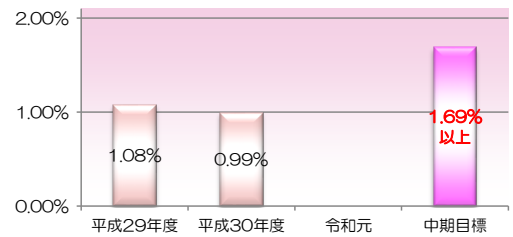
・基幹管路耐震適合率 ※1



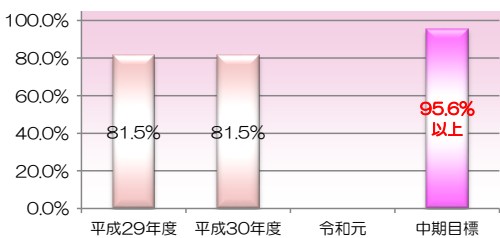
・管路更新率（期間平均） ※1



・基幹管路更新率（期間平均） ※1



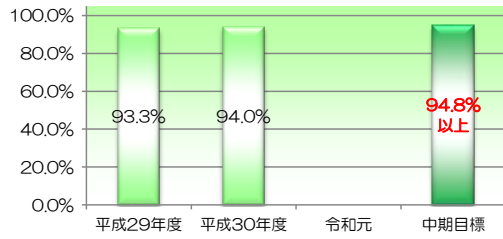
・小ブロック構築率



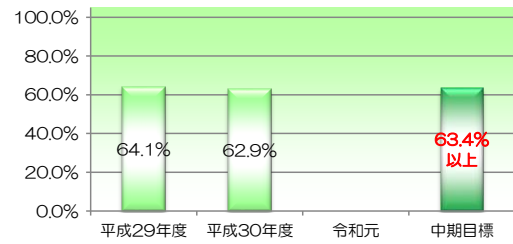
※1 算出の基となる延長は発注延長（計画値）を使用

■環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続

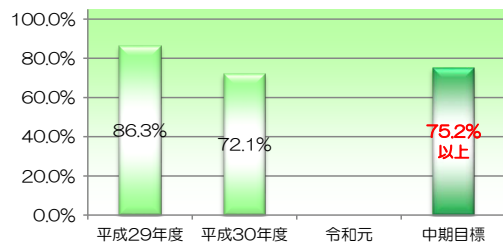
・有収率



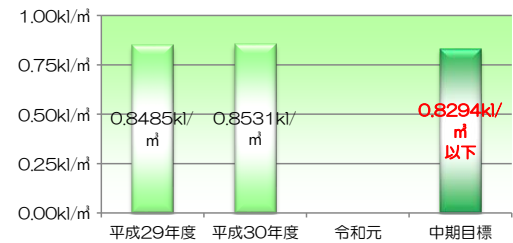
・施設利用率



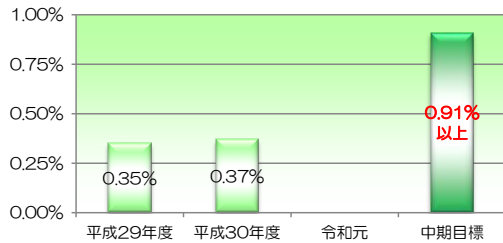
・施設最大稼働率



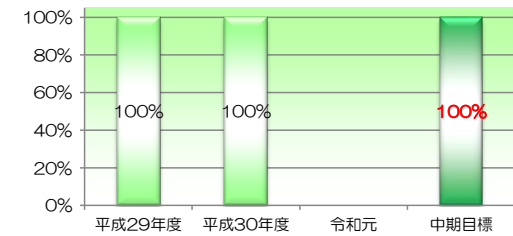
・エネルギー原単位



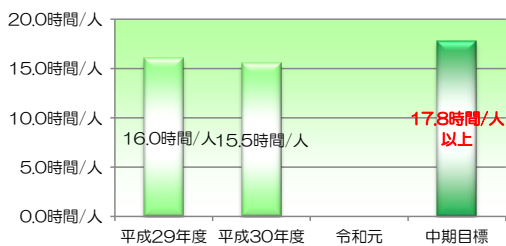
・再生可能エネルギー利用率



・浄水発生土の有効利用率



・内部研修実施時間



新・マスタープラン事業評価管理シート

平成30年度評価結果

令和元年6月

新潟市水道局

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-1	水源水質の監視	所管課	水質管理課
----	---	------------	--------	-----	---------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	同一の水源を利用する水道事業者や関係機関と連携し、情報共有体制の構築や河川の水質調査を行うことにより、浄水処理への影響を未然に防ぎます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	水源の監視・調査 ・信濃川・阿賀野川両水系水質協議会（両水協）および水質汚濁対策連絡協議会と連携し水源監視を実施します。 ・灯油流出などの水質事故時の緊急連絡について、関係機関と情報共有を確実に実施します（365日24時間）。 ・水道原水の共同調査を実施します（信濃川及び阿賀野川から取水する県内事業者の取水地点のうちで代表的な地点の河川水質を調査）。 ・浄水施設での対応が困難な物質を監視します。特に、水質基準外であっても人体に影響を及ぼすおそれがある項目を調査します。	水源の監視・調査 ・信濃川・阿賀野川両水系水質協議会（両水協）および水質汚濁対策連絡協議会と連携し水源監視を実施します。 ・灯油流出などの水質事故時の緊急連絡について、関係機関と情報共有を確実に実施します（365日24時間）。 ・水道原水の共同調査を実施します（信濃川及び阿賀野川から取水する県内事業者の取水地点のうちで代表的な地点の河川水質を調査）。 ・浄水施設での対応が困難な物質を監視します。特に、水質基準外であっても人体に影響を及ぼすおそれがある項目を調査します。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	752,300			1,030,100					
	執行額 (b)	752,300								
	執行率 (%) (b) / (a)	100%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	120時間	120時間	100%	120時間					
	期間 (d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月		12ヶ月					
	単位あたり の作業量 (c/d) (月あたりの実働時間)	10時間	10時間		10時間					
		(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度					
	・県内13水道事業者を会員として構成される両水協では、水道水の原料となる河川の水質を保全するために連絡通報網の整備や啓発活動に取り組んでいます。平成29年度は両水協の取組みの一つである水質事故時の緊急連絡体制の活用により、水質事故による水道水への被害を未然に防止することができました。平成29年11月に水質技術研修会を実施し、流域連携や河川事故等の対応について情報交換を行い、水質監視体制に関する技術的知見について、会員間で共有を図りました。	・県内13水道事業者を会員として構成される両水協では、水道水の原料となる河川の水質を保全するために連絡通報網の整備や啓発活動に取り組んでいます。水質事故による水道水への被害を未然に防止することができました。平成30年6月に水質技術研修会を実施し、会員である十日町市上下水道局の水道施設を視察し、県内水道事業者の水質管理等について、会員間で共有を図りました。											
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		水源の監視及び調査		1点									
	平均 (A)	1.0点			平均 (A)				平均 (A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
河川水質事故による 水道水の影響	目標(B)	目標(B)	目標(B)	0%	100.0%	3点						
	0%	0%	0%	0%	100.0%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
水道原水の水質調査	目標(B)	目標(B)	目標(B)	2回	100.0%	3点						
	2回	2回	2回	2回	100.0%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
浄水施設での対応が 困難な物質の監視	目標(B)	目標(B)	目標(B)	4回	100.0%	3点						
	4回	4回	4回	4回	100.0%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)									
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)									
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<p>本事業の活動予算については、両水協負担金として新潟県内13水道事業体の有収水量に応じて案分された額が充てられています。共同調査、上流調査、技術研修会の開催など、同協議会の事業計画および年間予算については、両水協総会（毎年6月実施）で承認される事業です。平成30年度予算の執行状況については、2月開催された幹事会において、概ね予定通りの執行であったと評価されました。</p>								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<p>両水協の活動を通して、信濃川水系および阿賀野川水系で年間100件程発生している水質事故について、事故発生時の迅速な連絡通報と関係機関との情報共有に努めることにより、水系全体の影響を未然に防ぎました。加えて、年次計画にある共同調査や特別調査を実施し、会員事業体の共益となる情報が得られました。また、幹事会や技術研修会等を通して、会員相互の連携がより強化され、本事業の目的である水源に内在するリスクの顕在化を未然に防止する取組みに対して十分な有効性があったと評価できます。</p>								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施 策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I - 2	水安全計画の充実・適切な運用	所管課	水質管理課
-----	---	------------	--------	-------	----------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	安全で良質な水道水を継続的に供給するために、水源からじゃ口までのすべての過程における一元的な水質管理を行う「水安全計画」を評価し、必要に応じて見直すことで計画の充実を図っていきます。					
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	水安全計画の運用・評価 ・PDCAサイクルによる水安全計画の評価を毎年実施し、必要に応じて適宜見直しを行います。		水安全計画の運用・評価 ・PDCAサイクルによる水安全計画の評価を毎年実施し、必要に応じて適宜見直しを行います。			

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			0					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	60時間	60時間	100%	60時間					
	期間 (d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月		12ヶ月					
	単位あたり の作業量 (c/d) (ひと月あたりの実働時間)	5時間 (ア)	5時間 (イ)		5時間 (イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度				令和元年度				令和2年度			
	・毎年度末に水安全計画の運用について、事故等への対応状況を評価する妥当性の確認を行っています。 ・平成27年度は各浄水場別の水安全計画の見直しを行い、より実効性のある計画の改定を行いました。具体的には、各浄水場における管理基準値を見直し、異常時・緊急時対応マニュアルを実態にあうよう改めました。次年度には改訂した阿賀野川浄水場水安全計画を参考に、他の浄水場分について順次見直しを行います。	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	
		水安全計画の評価・見直し		1点									
		平均 (A)	1.0点			平均 (A)				平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度				令和元年度				令和2年度			
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因
浄水場「水安全計画」 の評価実施率	100%	100%	100%	100%	100.0%	3点	0点								
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点									
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因
						加点									加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因
						加点									加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因
						加点									加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度				令和元年度				令和2年度			
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	水安全計画の評価については、平成21年度の策定以来、運用状況を振り返りながら適宜見直しを進めるPDCAサイクルを確実に推進しています。なお、水安全計画実施に際しては特別の予算は計上していません。											
評価結果	予算効率	3点	総合評価		予算効率		総合評価		予算効率		総合評価	
評価の観点・結果	作業効率	3点	C		作業効率		0点/10点		作業効率		0点/10点	
	外的要因加点	0点	6点/10点		外的要因加点		0点/10点		外的要因加点		0点/10点	
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	新潟市内すべての浄水場において妥当性の確認作業に加え、阿賀野川浄水場については大幅な見直しを行いました。水安全計画を着実に実行することによって、水源から給水栓に至るまでのリスクを未然に防止することができ、安全な水道水の安定供給が可能となっています。次年度には、阿賀野川浄水場以外の当該計画について、より実効性の高い計画となるよう、大幅に見直しを実施する予定です。											
評価結果	達成度	3点	総合評価		達成度		総合評価		達成度		総合評価	
評価の観点・結果	進捗度	3点	C		進捗度		0点/10点		進捗度		0点/10点	
	外的要因加点	0点	6点/10点		外的要因加点		0点/10点		外的要因加点		0点/10点	

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
検査機器の 保守点検実施率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	100%	100%	100%	100%	100.0%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点						
教育訓練実施率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	100%	100%	100%	100%	100.0%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点						
水質検査の公表回数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	12回	12回	12回	12回	100.0%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	12回	100.0%	3点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> GLP認定維持に係る予算については当初計画通りに適切に施行され、また、その評価についても満足するものでした。 機器の状態を勘案し、修繕用備品の交換時期を見直すことで、当該費用が抑えられたこと、突発的な機器修繕が少なく済んだことから、予算効率が向上しました。 水質管理における人材育成・技術の継承については、主にOJTにより進めていることから特別の予算は計上していません。 								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> GLP認定を維持しているということは、本市の水質検査が一定水準以上の技術力を確保し、その検査精度について第三者機関により客観的に保証されるということです。水道水の安全性保証を確実に行うことは、本市新・マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みです。 水質管理技術向上については、分析技術の計画的な習得を進め教育訓練を着実に実施することで、その成果を現場に反映できるよう努めています。 								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-4	新潟市独自の管理目標による水質管理	所管課	水質管理課
----	---	------------	--------	-----	-------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	国が定める水質基準値等より厳しい、本市独自の「安全性とおいしさの基準」である管理目標値を設定し、より安全でおいしい水道水の供給に取り組んでいます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	独自管理目標による水質管理 ・農業類と総トリハロメタン、残留塩素と臭気強度に関しては、独自の管理目標値により管理を行います。 ・必要に応じて独自管理目標値の見直しを行います。	独自管理目標による水質管理 ・農業類と総トリハロメタン、残留塩素と臭気強度に関しては、独自の管理目標値により管理を行います。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	34,851,600			41,850,000					
	執行額 (b)	41,779,044								
	執行率 (%) (b) / (a)	120%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	120時間	120時間	100%	120時間					
	期間 (d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月		12ヶ月					
	単位あたり の作業量 (c/d) (ひと月あたりの実働時間)	10時間 (ア)	10時間 (イ)		10時間 (イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度					
	・平成29年度については、全ての項目で目標を達成することができました。臭気強度管理においては、浄水場職員を対象とした臭気研修を行い浄水場出口での臭気確認体制の強化に努めることで、その効果を高めています。	・平成30年度については、総トリハロメタン濃度が独自目標値を1回超えたため、達成率は98%となりましたが、他の項目については目標を達成しました。目標達成率に達しなかった総トリハロメタン濃度については、夏季の塩水遡上等により河川水質が急激に悪化したため、一時的に目標値を超過したものと考えています。今後は河川水質の急激な変化にも対応できるよう、水質管理体制の強化を図っていきます。											
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		・独自管理目標値による水質管理		1点									
		平均 (A)		1.0点		平均 (A)				平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
農業濃度 管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	100%	100%	100%	100%	100.0%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点						
総トリハロメタン濃度 管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	100%	100%	100%	98%	97.7%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点						
残留塩素 管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	91%	91%	91%	87%	95.6%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点						
臭気強度管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	100%	100%	100%	100%	100.0%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<p>・本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給するために、浄水場と連携し粉末活性炭処理を実施することにより、目標値を概ね達成できました。調査研究は特別な予算を計上しておらず、業務に関連する項目について計画的に実施しています。</p> <p>・H30年度予算執行額が予算額を超過した要因については、昨年度発生した塩水遡上等の河川水質の急激な変化に対応するため、例年よりも活性炭を多く使用したことが考えます。</p>								
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<p>・本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給する取組みは、本市マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みです。ただし、活性炭の注入率と注入手法については浄水費の増加と関連することから、今後とも調査研究を進めます。</p>								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
体験型広報年間実施数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	12回	12回	12回	12回	100.0%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	—	—	—	—	—	3点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<p>・本事業についてはいずれも当初予定通りに実施されています。また、広報業務については、水道局広報人材育成室と連携することにより実施しています。</p> <p>・予算の執行率については、水源保全および水質管理センターPRパンフレットの構成を見直したことに加え、競争入札により当該費用を抑えることができたため、予算効率が向上しました。</p>								
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<p>・広報の充実については、今後当局として取組んでいくべき重要課題です。水質管理に精通した職員が水道水の安全性を分かりやすく広報することにより、お客さまが抱く水質的な不安感を払拭し、本市新・マスタープランの理念を実現することができると評価しています。また、今後は広報活動後にアンケートを実施することで、その浸透度等を評価できるよう努めていきます。</p>								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	II	給水装置における水質保持	事業・取組名	II-1	学校施設の水飲み水栓の直結給水化	所管課	管路課
----	----	--------------	--------	------	------------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	じゃ口から水を飲むという水道の文化を引き継ぎ、次世代を担う子供たちが水道水のおいしさをより実感できるよう、小中学校の水飲み水栓の直結給水化に取り組みます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	新潟市学校施設整備指針に基づき、小中学校における大規模改修計画に併せ、教育委員会と連携し、水飲み水栓の直結給水化を促進していきます。 教育委員会との連携 大規模改修計画に基づき協議を実施 学校施設の水飲み水栓の直結給水化率：平成32年度に70%以上	新潟市学校施設整備指針に基づき、小中学校における大規模改修計画に併せ、教育委員会と連携し、水飲み水栓の直結給水化を促進していきます。 教育委員会との連携 大規模改修計画に基づき協議を実施 学校施設の水飲み水栓の直結給水化率：平成32年度に70%以上	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			0					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	1回	3回	300%	1回					
	協議回数									
	期間 (d)	1年	1年		1年					
	対応期間									
単位あたりの作業量 (c/d)	1回/年	3回/年		1回/年						
対応期間あたり協議回数	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度				令和2年度				
	・学校施設の水飲み水栓の直結給水化率 65.7%	教育委員会との協議 協議実施回数 3回 教育委員会との協議及び情報収集から、大規模改修計画に基づく直結化実施予定校の確認を行いました。 また、大規模改修計画以外の工事(貯水槽入替等)で直結給水化が図られるか確認を行い、財政面から現在の計画に基づき進めることを確認しました。 学校施設の水飲み水栓の直結給水化率 66.1% 市立学校施設数 177校(統合により1校減) 直結化した学校数 117校											
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	
	教育委員会との協議	2点											
	平均 (A)	2.0点			平均 (A)					平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
学校施設の水飲み水 栓の直結給水化率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	前年度以上	前年度以上	70%以上	66.1%	101.7%	4点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	前年度以上	前年度以上	70%以上	66.1%	101.7%	4点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	教育委員会との協議及び情報共有を図り、今後の改修予定校を確認しました。 また、その他施設の工事(貯水槽入替、修繕等)に合わせた、直結給水化について協議を進めましたが、財政面から現在の計画に基づく実施を優先することを確認しました。 本取り組みについては、事業の性質上、予算計上及び執行はありません。								
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	平成30年度は大規模改修計画による直結給水化は発生しなかったものの、貯水槽方式を採用する1校が統合により減少したため、結果として直結給水化率が向上しました。 引き続き、教育委員会との協議及び情報共有を図り、双方共通の認識で取組を進めています。								
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施 策	II	給水装置における水質保持	事業・取組名	II-2	貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	所管課	管路課
-----	----	--------------	--------	------	---------------------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	貯水槽水道利用者へ安全でおいしい水道水が供給されるよう、訪問指導等の強化により、貯水槽の清掃率向上に向けた積極的な啓発活動を行います。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度		平成31年度
	民間清掃業者との連携 ・民間清掃業者との連携による啓発活動を行います。		民間清掃業者との連携 ・民間清掃業者との連携による啓発活動を行います。
	衛生管理訪問指導の実施 ・貯水槽施設衛生管理訪問指導（過去1年以上清掃報告の無い施設を対象に、訪問・電話指導）を実施します。		衛生管理訪問指導の実施 ・貯水槽施設衛生管理訪問指導（過去1年以上清掃報告の無い施設を対象に、訪問・電話指導）を実施します。
平成32年度			

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			平成31年度			平成32年度		
	予算額 (a)	4,052,556			2,040,019					
	執行額 (b)	4,277,612								
	執行率 (%) (b) / (a)	106%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	平成31年度	対目標	目標	平成32年度	対目標
	総作業量 (c)	0.3人	0.3人	100%	0.3人					
	担当者数									
	期間 (d)	1年	1年		1年					
	対応期間									
単位あたりの作業量 (c/d)	0.3人/年	0.3人/年		0.3人/年						
対応期間あたり従事職員数	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			平成31年度				平成32年度				
	貯水槽清掃実施率 ・簡易専用水道 97.4% ・小規模貯水槽水道 71.7% ・全体清掃率 82.3%	民間清掃業者との連携 貯水槽清掃強化月間の設定に向けて、民間清掃業者との協議を実施しましたが、連携の具体化には至りませんでした。令和元年度は、強化月間での取組案を基に、協議します。											
		衛生管理訪問指導の実施 （公財）新潟水道サービスへ貯水槽施設衛生管理指導業務を委託し、過去1年以上清掃報告の無い施設321件を対象に、訪問・電話指導を実施しました。											
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		民間清掃業者との連携	2点										
		衛生管理訪問指導の実施	2点										
平均 (A)	2.0点			平均 (A)				平均 (A)					

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
貯水槽清掃実施率 (簡易専用水道)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	93.3%	93.5%	93.7%	95.6%	102.5%	4点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
貯水槽清掃実施率 (小規模貯水槽水道)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	65.9%	66.0%	66.1%	70.5%	107.0%	4点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
貯水槽清掃実施率 (全体)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	77.0%	77.2%	77.3%	80.9%	105.1%	4点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	引き続き未清掃の小規模貯水槽施設に対する衛生管理訪問指導を委託し実施しました。 指導対象の増に伴い委託料が増高したものの、限られた人員体制の中で、効率よく指導強化を進めました。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	4点	B	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	全体の貯水槽清掃率は、平成29年度に引き続き目標値を3.9ポイント上回りました。 引き続き高い清掃率を達成できたことは、訪問・電話指導の充実・強化の効果が一因としてあったものと考えます。 しかし、清掃実施率は毎年上下を繰り返しており、今後も継続的に清掃実施率の推移に注視していく必要があります。								
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	Ⅱ	給水装置における水質保持	事業・取組名	Ⅱ-3	指定給水装置工事事業者の技術力向上	所管課	管路課
----	---	--------------	--------	-----	-------------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	指定給水装置工事事業者の技術力向上により、工事の品質確保やお客さまのトラブルの未然防止を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	講習会への積極的な参加要請、講習内容の適宜見直し ・指定給水装置工事事業者講習会への参加を積極的に働きかけます。 ・講習会事務局として、適切な施工確保に向けた講習内容の見直しを適宜行います。 給水装置工事の適切な評価と表彰制度の継続 ・指定給水装置工事事業者の意欲の向上を図るため、表彰制度を継続します。	講習会への積極的な参加要請、講習内容の適宜見直し ・指定給水装置工事事業者講習会への参加を積極的に働きかけます。 ・講習会事務局として、適切な施工確保に向けた講習内容の見直しを適宜行います。 給水装置工事の適切な評価と表彰制度の継続 ・指定給水装置工事事業者の意欲の向上を図るため、表彰制度を継続します。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度				
	予算額 (a)	380,000		345,000						
	執行額 (b)	306,864								
	執行率 (%) (b) / (a)	81%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) 担当者数	0.2人	0.2人	100%	0.2人					
	期間 (d) 対応期間	1年	1年		1年					
	単位あたりの 作業量 (c/d)	0.2人/年	0.2人/年		0.2人/年					
対応期間あたり 従事職員数	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度				
	講習会への積極的な参加要請 ・講習会参加率 -	講習会への積極的な参加要請、講習内容の適宜見直し ・引き続き出席者数の増に向けて、参加勧奨に取り組みましたが、業務を理由に参加を見送る事業者も多く、結果として目標達成に至りませんでした。 (前年度は講習会を実施しなかったため、昨年度の目標値を基に評価)										
	講習内容の適宜見直し ①水道法改正 (予定)	適切な給水装置工事の施工技術確保に向け、講習内容の見直しと講習会用資料を作成しました。										
	給水装置工事の適切な評価と表彰制度を 継続 ・優良工事店表彰 (19件:17社) ・特別表彰 (1団体)	給水装置工事の適切な評価と表彰制度を継続 ・指定給水装置工事事業者の施工技術向上及び意欲高揚を目的とした優良工事店表彰を実施しました。(19件:17社) ・寒波の際の応急復旧支援に対し、特別表彰を実施しました。(1団体)										
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		講習会参加要請、講習内容の 適宜見直し	1点									
	指定給水装置工事事業者表彰の実施	1点										
	平均 (A)	1.0点			平均 (A)				平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
給水装置に係る事故 件数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	0件	0件	0件	0件	100.0%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点						
指定給水装置工事事 業者講習会参加率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	前年度(78%)以上	前年度(78%)以上	79.0%	75.0%	96.2%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	指定給水装置工事事業者講習会の講習内容は、指定工事事業者の施工技術向上に資するべく、水道法改正の内容など、最近の情報を盛り込んで作成しました。 優良工事店表彰については、施行内容が優れた工事事業者19社に対し、支障なく実施しました。 運営経費に契約差益が生じたこともあり、結果として予算効率評価が上昇しました。								
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	講習会や表彰制度にあっては、業者の施工技術の向上及び意欲の高揚を図ることを目的に実施しており、これらの取り組みは給水装置工事における事故防止にも繋がります。 よって当該取組は、今後も継続的に実施していきます。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	Ⅲ	水道施設の計画的更新	事業・取組名	Ⅲ-1	浄水施設施設の計画的更新	所管課	計画整備課
----	---	------------	--------	-----	--------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	浄水処理・送配水機能の信頼性と安定性を維持していくため、老朽化した設備を計画的に更新するとともに、水需要の減少を踏まえて設備能力を見直し、施設規模の適正化を図ります。また、更新に併せて、環境負荷の低減や維持管理性の向上に配慮した整備を進めます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	浄水場毎に実施する大規模な整備事業を中心に、各施設の老朽化した設備を更新します。 【阿賀野川浄水場施設整備事業】平成27～令和元年度 【配水場施設整備事業】平成28～令和2年度 【個別整備】各施設の経年劣化した個別の設備状況に合わせ、計画的な更新及び施設整備を実施	浄水場毎に実施する大規模な整備事業を中心に、各施設の老朽化した設備を更新します。 【阿賀野川浄水場施設整備事業】平成27～令和元年度 【配水場施設整備事業】平成28～令和2年度 【個別整備】各施設の経年劣化した個別の設備状況に合わせ、計画的な更新及び施設整備を実施	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	2,011,000,000			720,150,000					
	執行額 (b)	2,063,525,000								
	執行率 (%) (b) / (a)	103%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	7.0人	7.0人/年	100%	6.2人					
	担当者数									
	期間 (d)	1年	1年		1年					
	従事期間									
単位あたりの作業量 (c/d)	7.0人/年	7.0人/年		6.2人/年						
1年間の従事職員数	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度				令和元年度				令和2年度			
	◆阿賀野川浄水場施設整備事業 ・ポンプ場築造工事の実施（平成29年度完了） ・電気設備更新工事の実施（令和元年度完了予定） ・自家発電設備更新工事の実施（平成30年度完了予定） ・監視制御設備更新工事の実施（令和元年度完了予定） ・ポンプ設備更新工事の実施（平成30年度完了予定） ・粉末活性炭注入設備更新工事の実施（平成30年度完了予定） ◆配水場施設整備事業 ・内野配水ポンプ電気設備更新工事の実施（平成29年度完了） ・竹尾配水ポンプ電気設備更新工事の実施（平成30年度完了予定） ・南浜電気設備更新工事の実施（令和2年度完了予定） 経年劣化した設備の個別整備	◆阿賀野川浄水場施設整備事業 ・自家発電設備、ポンプ設備、粉末活性炭注入設備更新工事の実施（平成30年度完了） ・電気設備、監視制御設備更新工事の実施（令和元年度完了予定） ◆配水場整備事業 ・竹尾配水ポンプ電気設備更新工事の実施（平成30年度完了） ・南浜電気設備、配水場監視制御設備、内島見配水ポンプ電気設備、南浜ポンプ設備、内島見ポンプ設備更新工事の実施（令和2年度完了予定） ◆経年劣化した設備の個別整備											
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		阿賀野川浄水場整備事業		1点									
		配水場整備事業		1点									
		平均 (A)		1.0点		平均 (A)				平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
阿賀野川浄水場 施設整備事業	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	-	実績	3点							
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
配水場施設整備事業	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績	3点							
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆阿賀野川浄水場施設整備事業 自家発電設備、ポンプ設備、粉末活性炭注入設備更新工事は予定通り完了しました。電気設備、監視制御設備更新は予定通り工事を進めています。 ◆配水場施設整備事業 竹尾配水ポンプ電気設備更新工事は予定通り完了しました。監視制御設備更新工事、内島見配水ポンプ電気設備更新工事、南浜ポンプ設備更新工事、内島見ポンプ設備更新工事を計画通り発注し、工事に着手しました。南浜電気設備更新工事は予定通り工事を進めています。 ◆個別整備 計画通り工事を進めています。 								
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	水需要の減少を踏まえた施設規模の適正化を図るとともに、浄配水施設の信頼性と安定性を維持していくため、老朽化した設備を計画的かつ効率的に更新する必要があります。 阿賀野川浄水場及び配水場施設整備事業は、昨年度に引き続き稼働施設の安全確保を最優先として、計画通りの確実な施工管理を行います。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	Ⅲ	水道施設の計画的更新	事業・取組名	Ⅲ-2	管路施設の計画的更新	所管課	計画整備課
----	---	------------	--------	-----	------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するため、アセットマネジメント手法を取り入れ、更新周期を設定し、老朽化した管路施設（基幹管路・配水支管）を計画的に更新します。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～令和6年度 59.7 km 平成30年度 3,300m（中期実施計画より） 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～令和6年度 239.7 km 平成30年度 13,500m（中期実施計画より）	基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～令和6年度 59.7 km 令和元年度 2,000m（中期実施計画より） 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～令和6年度 239.7 km 令和元年度 13,100m（中期実施計画より）	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	4,609,721,600			4,660,011,600					
	執行額 (b)	4,731,122,992								
	執行率 (%) (b) / (a)	103%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	31.53人	30.65人	97%	31.13人					
	担当者数									
	期間 (d)	1年	1年		1年					
	対応期間									
単位あたりの作業量 (c/d)	31.53人/年	30.65人/年		31.13人/年						
対応期間あたり従事職員数	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	◆工事発注延長 (注) 基幹管路更新事業 更新延長 3,193m 2,840m (予算時 計画長) 配水支管更新事業 更新延長 15,617m 14,079m (予算 時計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難な ため、別ルートによる更新を行った結果、延 長が増えています。	◆工事発注延長 (注) 基幹管路更新事業 更新延長 3,269m 3,310m (予 算時計画長) 配水支管更新事業 更新延長 14,589m 13,532m (予 算時計画長) ◆工事竣工延長 (前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 4,022m 配水支管更新事業 更新延長 14,938m (注)：事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理しています。								
	◆工事竣工延長 (前年度からの繰越延 長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 4,388m 配水支管更新事業 更新延長 17,090m (注)：事業の進捗は、工事の発注延 長により計画管理しています。	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		基幹管路更新事業	1点							
		配水支管更新事業	1点							
	平均 (A)	1.0点			平均 (A)			平均 (A)		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度				令和元年度			令和2年度		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
基幹管路更新延長 ※評価指標の延長は 発注延長(計画値)を使用	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	3,300m	2,000m	2,000m	3,269m	99%	3点							
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		
配水支管更新延長 ※評価指標の延長は 発注延長(計画値)を使用	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	13,500m	13,100m	13,500m	14,589m	108%	4点							
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		

■評価結果

所管評価	平成30年度				令和元年度			令和2年度				
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	新マスタープラン中期実施計画の見直しにより、市街地の工事に集中することで、基幹管路更新・配水支管更新は予定通りの工事発注を行いました。											
評価結果	予算効率	2点	総合評価		予算効率		総合評価		予算効率		総合評価	
評価の観点・結果	作業効率	3点	C		作業効率				作業効率			
	外的要因加点	0点	5点/10点		外的要因加点		0点/10点		外的要因加点		0点/10点	
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	漏水による影響が大きい市街地の老朽管更新を進めることにより漏水事故の未然防止を図りました。今後も計画的に事業を進めていきます。											
評価結果	達成度	4点	総合評価		達成度		総合評価		達成度		総合評価	
評価の観点・結果	進捗度	4点	B		進捗度				進捗度			
	外的要因加点	0点	8点/10点		外的要因加点		0点/10点		外的要因加点		0点/10点	

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	Ⅲ	水道施設の計画的更新	事業・取組名	Ⅲ-3	鉛給水管の計画的更新	所管課	管路課
----	---	------------	--------	-----	------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	鉛給水管を更新し給水管の耐震化および漏水の未然防止を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	鉛給水管が分岐している配水支管（小口径老朽管：主に口径50mmのビニル管、銅管）の更新により効果的に鉛給水管の解消を図ります。また、戸別の鉛給水管の更新は鉛管使用密度の高い地域から解消していきます。 ・小口径老朽管更新（ガス工事競合） ・小口径老朽管更新（局単独工事） ・他工事に関連する鉛給水管更新（下水道工事等） ・鉛給水管更新（戸別） ・検定満期メータの取替に伴う更新	鉛給水管が分岐している配水支管（小口径老朽管：主に口径50mmのビニル管、銅管）の更新により効果的に鉛給水管の解消を図ります。また、戸別の鉛給水管の更新は鉛管使用密度の高い地域から解消していきます。 ・小口径老朽管更新（ガス工事競合） ・小口径老朽管更新（局単独工事） ・他工事に関連する鉛給水管更新（下水道工事等） ・鉛給水管更新（戸別）	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	584,322,260			578,467,260					
	執行額 (b)	558,830,440								
	執行率 (%) (b) / (a)	96%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	10.9人	10.31人	95%	10.0人					
	担当者数									
	期間 (d)	1年	1年	95%	1年					
対応期間										
単位あたりの作業量 (c/d)	10.9人/年	10.31人/年		10.0人/年						
対応期間あたり従事職員数	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	鉛製給水管率 5.9%	施策	当初見込	更新数	実施率					
	①	小口径管鉛給水管更新 (ガス競合)	230	205	89.1%					
		小口径管鉛給水管更新 (局単独)								
		連合給水鉛管更新								
	②	小計	230	205						
		他工事給水鉛管更新	841	599	92.8%					
		給水鉛管更新(局単独)								
		メーター取替更新								
		給水装置工事	350	506						
	小計	1,191	1,105							
	計	1,421	1,310	92.2%						
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		
① 4条予算事業			0点							
② 3条予算事業			1点							
	平均 (A)	0.5点			平均 (A)			平均 (A)		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
鉛給水管率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	前年度(5.2%)以下	前年度(5.2%)以下	3.6%以下	5.5%	94.5%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	前年度(5.2%)以下	前年度(5.2%)以下	3.6%以下	5.5%	94.5%	3点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	鉛給水管の更新は、他工事と併せ実施することによる費用の縮減や、鉛管密度の高い地域から更新を進めることで効率化を図っていますが、鉛管更新の進捗により鉛管密度は当初見込以上に漸次低減しており、今年度から検定満期メータの取替に併せ、鉛給水管の更新を行うなど、新たな取り組みを実施したものの、今年度も当初目標を下回る結果となりました。 なお、前述のとおり、他工事（下水道・ガス）の減少及び鉛管密度の低下（目標作成時当0.8件/10m⇒H30決算値0.58件/10m）により、当初見込み以上に工事実施数が減少するなど、外的要因で効率性の低下が生じたため、加点を行うものです。								
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	2点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	1点	5点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	鉛給水管の更新は漏水事故の未然防止や有収率向上の観点から継続して実施する必要があることから、引き続き他工事関連や、小口径老朽管（主に口径50mmのビニール管、銅管）の解消を推進するとともに、戸別の鉛給水管は鉛管密度の高い地域から解消を進めます。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	災害対策・体制の強化	事業・取組名	IV-1	浄配水施設の計画的耐震化	所管課	計画整備課
----	----	------------	--------	------	--------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	大規模地震が発生した場合でも、影響を最小限にとどめ、水道システムとして機能を損なうことのないよう、浄配水施設整備に併せ、効率的に浄配水施設等の耐震化を進めます。						
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度			令和元年度			令和2年度
	耐震補強実施予定施設 平成27～令和6年度 【建築物】2施設 ・戸頭浄水場（脱水機棟、沈澱池、ろ過池上屋） 【土木構造物】13施設 ・青山浄水場（配水池、洗浄水槽）・阿賀浄水場（配水池、洗浄水槽） ・満願寺浄水場（沈砂池）・戸頭浄水場（配水池）・巻浄水場（ろ過池） ・その他（取水場、配水場等5施設） 【構内水管】 ・取水場、浄水場、配水場			耐震補強実施予定施設 平成27～令和6年度 【建築物】2施設 ・戸頭浄水場（脱水機棟、沈澱池、ろ過池上屋） 【土木構造物】13施設 ・青山浄水場（配水池、洗浄水槽）・阿賀浄水場（配水池、洗浄水槽） ・満願寺浄水場（沈砂池）・戸頭浄水場（配水池）・巻浄水場（ろ過池） ・その他（取水場、配水場等5施設） 【構内水管】 ・取水場、浄水場、配水場 【令和元年度】 ・阿賀野川浄水場（配水池）耐震化工事（構内水管含む）「令和元年度完了」			

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	472,000,000			532,600,000					
	執行額 (b)	700,149,000								
	執行率 (%) (b) / (a)	148%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	0.3人	0.3人/年	100%	1.7人					
	期間 (d)	1年	1年		1年					
	単位あたりの作業量 (c/d)	0.3人/年	0.3人/年		1.7人/年					
		(P)	(I)	(I/P)	(P)	(I)	(I/P)	(P)	(I)	(I/P)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度					
	◆阿賀野川浄水場 ・構内水管の耐震化および配水池耐震補強の実施（令和元年度完了予定） ・沈砂池耐震補強の実施（平成29年度完了） ◆その他 ・青山向け導水管サージタンク（鳥屋野小学校脇）転倒対策完了	◆阿賀野川浄水場 ・構内水管の耐震化および配水池耐震補強の実施（令和元年度完了予定） ・構内給水管工事の実施（令和元年度完了予定） ※阿賀野川構内水管耐震化は継続費で予算を編成しており、今年度は過年度繰り越し分を執行したことにより、執行率が大幅に上昇しました。											
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	平均 (A)				平均 (A)				平均 (A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
【建築物】 (完了数/全計画数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	0/2	0/2	0/2	-	-	-						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	-	実績累計(E)	進捗度(E/C)	-	実績累計(E)	進捗度(E/C)	-
	0	0	0	-	-	-						
【土木構造物】 (完了数/全計画数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	3/13	4/13	4/13	-	-	-						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	-	実績累計(E)	進捗度(E/C)	-	実績累計(E)	進捗度(E/C)	-
	3	4	4	-	-	-						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・構内水管の耐震化および配水池耐震補強を計画通りに進めています。 ・構内給水管工事を計画通り発注し、工事着手しました。 ※平成30年度は完了の建築物及び土木構造物が無いため、評価対象外とします。								
評価結果	予算効率	-	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	-	-	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	-	0点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	大規模地震が発生した場合でも、水道システムとして機能を損なうことのないように浄配水施設の耐震化を進めていく必要があります。 来年度以降も継続して、浄配水施設の施設整備にあわせ、計画的かつ効率的に耐震補強を実施します。 ※平成30年度は完了の建築物及び土木構造物が無いため、評価対象外とします。								
評価結果	達成度	-	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	-	-	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	-	0点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	災害対策・体制の強化	事業・取組名	IV-2	管路施設の計画的耐震化	所管課	計画整備課
----	----	------------	--------	------	-------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	大規模地震が発生した場合でも、生活や都市活動に必要な水道水をできる限りお客さまに届けられるよう、老朽化管路を地震に強い耐震管へ入れ替え、管路施設の耐震化を進めます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	Ⅲ-2 管路施設の計画的更新に併せ実施 基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～令和6年度 59.7km 平成30年度 3,300m（中期実施計画Ⅲ-2より） 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～令和6年度 239.7km 平成30年度 13,500m（中期実施計画Ⅲ-2より）	Ⅲ-2 管路施設の計画的更新に併せ実施 基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～令和6年度 59.7km 令和元年度 2,000m（中期実施計画Ⅲ-2より） 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～令和6年度 239.7km 令和元年度 13,100m（中期実施計画Ⅲ-2より）	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度				
	予算額 (a)	4,609,721,600		4,660,011,600						
	執行額 (b)	4,731,122,992								
	執行率 (%) (b) / (a)	103%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	31.53人	30.65人		31.13人					
	担当者数									
	期間 (d)	1年	1年	97%	1年					
	対応期間									
単位あたりの作業量 (c/d)	31.53人/年	30.65人/年		31.13人/年						
対応期間あたり従事職員数	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	◆工事発注延長 (注) 基幹管路更新事業 更新延長 3,193m 2,840m (予算 時計画長) 配水支管更新事業 更新延長 15,617m 14,079m (予 算時計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難なた め、別ルートによる更新を行った結果、 延長が増えています。	◆工事発注延長 (注) 基幹管路更新事業 更新延長 3,269m 3,310m (予算時計画長) 配水支管更新事業 更新延長 14,589m 13,532m (予算時計画長) ◆工事竣工延長 (前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 4,022m 配水支管更新事業 更新延長 14,938m (注)：事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理しています。								
	◆工事竣工延長 (前年度からの繰越 延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 4,388m 配水支管更新事業 更新延長 17,090m (注)：事業の進捗は、工事の発注 延長により計画管理しています。	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		基幹管路更新事業	1点							
		配水支管更新事業	1点							
	平均 (A)	1.0点			平均 (A)			平均 (A)		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
管路耐震適合率 ※ 目標は実施計画で 見直さない	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	69.3%	70.0%	70.8%	68.6%	99%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
基幹管路耐震適合率 ※ 目標は実施計画で 見直さない	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	63.5%	64.7%	65.9%	63.6%	100%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	新マスタープラン中期実施計画の見直しにより、市街地の工事に集中することで、基幹管路更新・配水支管更新は予定通りの工事発注を行いました。								
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	管路施設の耐震化については大規模地震が発生した場合でも、生活や都市活動に必要な水道水をできるだけ届けられるよう、断水時に影響の大きい老朽化基幹管路の更新にあわせ、計画的に進めています。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	災害対策・体制の強化	事業・取組名	IV-3	重要施設向け配水管の耐震化	所管課	計画整備課
----	----	------------	--------	------	---------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	災害時に早急な対策・復旧計画の策定が求められる行政機関や、被災した市民の生命に係る救急医療施設などの重要施設向け配水管の耐震化を優先的に進め、被災対応の充実を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	重要施設に位置づけた市内の行政機関および救急医療機関への供給ルートである配水管を優先的に耐震管に入れ替えます。 平成27年度～令和6年度において（中期実施計画で見直し） 行政機関 6 施設 医療機関 1 9 施設に向けた配水管を耐震化 （累計：行政機関 1 4 施設 医療機関 4 2 施設） 平成30年度 医療機関 2 施設（累計：行政機関 8 施設 医療機関 2 6 施設）	重要施設に位置づけた市内の行政機関および救急医療機関への供給ルートである配水管を優先的に耐震管に入れ替えます。 平成27年度～令和6年度において（中期実施計画で見直し） 行政機関 6 施設 医療機関 1 9 施設に向けた配水管を耐震化 （累計：行政機関 1 4 施設 医療機関 4 2 施設） 令和元年度 医療機関 1 施設（累計：行政機関 8 施設 医療機関 2 7 施設）	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	278,000,000			264,000,000					
	執行額 (b)	256,862,210								
	執行率 (%) (b) / (a)	92%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	2.03人	1.34人	66%	1.83人					
	担当者数									
	期間 (d)	1年	1年		1年					
	対応期間									
単位あたりの作業量 (c/d)	2.03人/年	1.34人/年		1.83人/年						
対応期間あたり従事職員数	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度				令和2年度			
	◆耐震化完了重要施設数（実際に工事が完了した施設数の累計） ・行政機関 8 施設（H29年度完了） ・医療機関 2 3 施設（H29年度県立がんセンター新潟病院、信楽園病院附属有明診療所、聖園病院完了） ◆重要施設向け配水管更新工事発注施設数※ ・行政機関 0 施設 ・医療機関 4 施設：県立がんセンター新潟病院、信楽園病院附属有明診療所、聖園病院、山東第二病院（H29年度発注：H30年度へ繰越） ※事業の進捗は、工事の発注により計画管理しています。評価はこの数値により行います。	◆耐震化完了重要施設数（実際に工事が完了した施設数の累計） ・行政機関 8 施設（H30年度完了） ・医療機関 2 5 施設（H30年度 向陽メディカルクリニック、山東第二病院完了） ◆重要施設向け配水管更新工事発注施設数※ ・行政機関 0 施設【計 8 施設】 ・医療機関 3 施設【計 2 6 施設】 向陽メディカルクリニック、白根緑ヶ丘病院（H30年度発注：R1年度へ繰越）とやの中央病院（H30年度発注：3カ年継続） ※事業の進捗は工事の発注により計画管理しています。評価は工事発注施設数により行います。										
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～
	重要施設向け配水管の耐震化		1点									
	平均 (A)		1.0点		平均 (A)				平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
重要施設向け 配水管の耐震化 ※評価指標の進捗は、 工事の発注により行う	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	2施設	1施設	3施設	3施設(見込み)	150%	5点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	2施設	3施設	6施設	3施設(見込み)	150%	5点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は他工事関連の遅延により、年度内で完了しない施設がありました。しかし、予定された工事については、全て発注しました。 ・予算執行、人員体制は他工事関連との競合により効率的に事業を発注できました。 								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	4点	B	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の繰越により、年度内で完了しない施設がありました。今後は他工事との調整を密接に行い、繰越が無いよう取り組む必要があります。 ・重要施設向け配水管の耐震化は、災害時の対策として重要な取り組みであることから、今後も計画的に事業を進めます。 								
評価結果	達成度	5点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	5点	A	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	災害対策・体制の強化	事業・取組名	IV-4	配水管網のブロック化の推進	所管課	管路課
----	----	------------	--------	------	---------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	事故・災害時の被害範囲の極小化や復旧の迅速化を図るため、配水幹線の更新や関連事業との整合を図りながら、小ブロック（135ブロック）の構築を行います。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	令和4年度末までに135の小ブロック構築を完了する ・平成30年度：16小ブロックの構築	令和4年度末までに135の小ブロック構築を完了する ・令和元年度：3小ブロックの構築	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			0					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	0人	0人	0%	0人					
	担当者数									
	期間 (d) 対応期間	1年	1年	1年						
単位あたり の作業量 (c/d) 対応期間あたり従事職員数	0人/年	0人/年	(イ/ア)	0人/年	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	小ブロック構築率 81.5% (110/135)	小ブロック構築数 0ブロック ・小ブロック構築率 81.5% (110/135) 小ブロック構築済みの地域に管路整備を集中していることもあり、布設替えに伴う小ブロックの構築には至りませんでした。								
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	小ブロック構築数			0点						
	平均 (A)	0.0点			平均 (A)			平均 (A)		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
小ブロック構築率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	93.3%	95.6%	95.6%	81.5%	87.4%	2点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	1点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	93.3%	95.6%	95.6%	81.5%	87.4%	2点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	小ブロック構築のための管路整備は、他の管路整備事業に併せて効率的に実施されるため、事業の性質上、予算の計上及び執行はありませんでした。 平成30年度は、引き続き小ブロック構築済みの地域に管路整備が集中したこともあり、布設替えに伴う小ブロックの構築には至りませんでした。								
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	2点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	1点	5点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	配水管網のブロック化は、事故・災害時における被害範囲の極小化や、迅速な復旧を行うために有効な手段です。 来年度以降についても、当面小ブロック構築済み地域での管路整備が集中する見込みであり、新規の小ブロック構築は厳しい状況が続きます。 市街地の老朽管路の布設替えが喫緊の課題であり、小ブロック構築に優先して整備事業を進める事情がある点も考慮して外的要因加点を行うものです。								
評価結果	達成度	2点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	2点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	1点	5点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	災害対策・体制の強化	事業・取組名	IV-5	大ブロック間の相互連絡管の整備	所管課	管路課
----	----	------------	--------	------	-----------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	事故・災害時のバックアップを目的とし、大ブロック（各浄水場給水区域）間に相互連絡管を整備し、安定給水の向上を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線φ500mm L=6,880m 整備期間 平成27年度～令和6年度 平成30年度690m 青山浄水場系～南山配水場系連絡管整備 ・φ500mm L=2,030m 整備期間 平成30年度～令和2年度 平成30年度500m	巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線φ500mm L=6,880m 整備期間 平成27年度～令和6（2024）年度 令和元（2019）年度 1,270m 青山浄水場系～南山配水場系連絡管整備 ・φ500mm L=2,030m 整備期間 平成30年度～令和2（2020）年度 令和元（2019）年度 500m	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	535,000,000			878,000,000					
	執行額 (b)	439,375,619								
	執行率 (%) (b) / (a)	82%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) 担当者数	1.9人	1.5人	79%	2.5人					
	期間 (d) 対応期間	1年	1年		1年					
	単位あたり の作業量 (c/d)	1.9人/年	1.5人/年		2.5人/年					
対応期間あたり従事職員数	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度				
	巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L = 1068.7m	巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・φ500mm L=1,262.7m 当初計画期間内の一部工事について、当年度工事箇所と次年度工事箇所との入替を行ったことにより、結果として当初目標を超える整備延長を施工しました。 青山浄水場系～南山配水場系連絡管整備 ・φ500mm L=511.7m 当初計画に沿って施工しました。										
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～
	連絡管整備延長	2点										
	平均 (A)	2.0点			平均 (A)			平均 (A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
相互連絡管整備延長 (巻浄水場系～戸頭 浄水場系連絡管)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	690m	1270m	220m	1262.7m	183.0%	5点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
相互連絡管整備延長 (青山浄水場系～南 山配水場系連絡管)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	500m	500m	1030m	511.7m	102.3%	4点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	現場環境が良好（地方部）で作業効率が高いことに加え、巻浄水場～戸頭浄水場間の整備事業において、河川管理者との調整等から、当初計画期間内の一部工事について、当年度工事箇所と次年度工事箇所との入替を行い、結果として計画以上の伸長が生じました。								
評価結果	予算効率	5点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	5点	A	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	平成20年度から令和6年度までの17年間を整備期間として設定した連絡管整備事業の内、平成27年度から令和6年度までの工事の約57%が終了しました。 事故・災害発生時のバックアップ機能を向上させるため、今後も計画に沿って事業を実施していきます。								
評価結果	達成度	5点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	A	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	9点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	災害対策・体制の強化	事業・取組名	IV-6	事故・災害時における復旧体制の強化	所管課	経営管理課
----	----	------------	--------	------	-------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	事故・災害時などの非常時において、迅速かつ確に応急給水する体制や、水道施設を早期に復旧する体制の強化を図るとともに、応急給水設備の整備や、給水や復旧に係る各種災害協定や関係団体・地域住民との連携の強化などをはかります。						
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度			令和元年度			令和2年度
	各種災害時マニュアルの作成・更新 ・各種災害時マニュアル・計画等の継続的な見直しを行います。 マニュアルに基づく訓練の実施 ・局内及び他事業体との訓練を行います。 応急給水設備の整備 ・信濃川浄水場の住民用応急給水設備は、事業の見直しを行うため整備を凍結しました。 災害時の協力体制および連携体制の拡充 ・民間企業や地域住民との協力及び協働体制構築に向けた調整を行います。 拠点給水所の周知方法の検討・実施 ・お客さまに対して、拠点給水所の周知方法の検討を行います。			各種災害時マニュアルの作成・更新 ・各種災害時マニュアル・計画等の継続的な見直しを行います。 マニュアルに基づく訓練の実施 ・局内及び他事業体との訓練を行います。 応急給水設備の整備 ・阿賀野川浄水場に給水車常設注水設備を整備します。 災害時の協力体制および連携体制の拡充 ・民間企業との協力体制構築に向け、災害時応援協定の締結を検討します。 ・地域住民との協働体制構築に向け、防災訓練を行います。 ・緊急連絡管(燕市)を整備します。(新潟広域都市圏ビジョンに係る連携事業) 拠点給水所の周知方法の検討・実施 ・お客さまに対する周知方法について、更なる検討を行います。			

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			23,855,900					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	33.1	33.1	100%	741.0					
	時間 (h)									
	人員 (d)	3	3		3					
	作業従事職員数									
単位あたりの作業量 (c/d)	11.0	11.0		247.0						
h / 人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度					
	・危機管理マニュアル類の見直しを行い充実を図りました。 ・災害時における他団体との連携強化として、①株式会社荏原製作所北陸支社、②第一環境株式会社、③新潟市海洋河川文化財団との各種応援協定の締結を行いました。 ・巻浄水場の住民用応急給水設備は、隣接する既存施設を活用することで、整備済となりました。 ・地域住民との災害時における連携を図るため、①南区の自治会、②東区の住民との応急給水訓練を実施しました。	各種災害時マニュアルの作成・更新 ・マニュアル等を見直し内容の充実を図りました。(寒波修繕対応の手引きなど) マニュアルに基づく訓練の実施 ・局内(対策本部会議運営訓練)及び他事業体(全国訓練、首都直下訓練など)との訓練を行いました。 災害時の協力体制および連携体制の拡充 ・民間企業と災害時応援協定を締結しました。(2件：新潟企業(株)他3社、新潟県牛乳輸送(株)) ・地域住民等と連携した応急給水訓練を実施しました。(東区1回、江南区2回、秋葉区1回、南区1回) 拠点給水所の周知方法の検討・実施 ・周知方法を検討し、その方法の一つとして「にいがた防災アプリ」との連携を図りました。(同アプリへ水道局HPをリンクした。)											
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		各種災害時マニュアルの更新		1点									
		マニュアルに基づく訓練の実施		1点									
		災害時の協力体制および連携体制の充実		1点									
		拠点給水所の周知方法の検討・実施		1点									
平均 (A)		1.0点			平均 (A)				平均 (A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)
各種マニュアルの 作成・見直し	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績	3点							
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
マニュアルに基づく訓練 の実施	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績	3点							
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
給水車用常設注水 設備の整備	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	-	1箇所(阿賀野川)	-	-	-							
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	-	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
住民用応急給水設備 の整備	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	1箇所(高瀬川)	-	-	-	-							
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	-	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
拠点給水所の周知方 法の検討・実施	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績	3点							
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	・予算を伴う取組はありませんでしたが、「取組内容」を計画どおりに実施しました。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	・マニュアルの見直しを行い、災害対応力を向上させました。 ・局内及び他事業体との訓練により、災害時の連携を確認し救援活動の実効性を高めました。 ・民間企業と災害時応援協定を締結し、災害時の協力及び連携体制を強化しました。 ・地域住民と協働した応急給水訓練を行い、災害時の連携を強化しました。 ・「にいがた防災アプリ」との連携し、拠点給水所の周知方法を拡充しました。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	V経営基盤の強化	事業・取組名	V-1	アセットマネジメントによる適正な資産管理	所管課	計画整備課
----	---	----------	--------	-----	----------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	人口減少に伴い給水収益の大幅な減少が見込まれる中、水道事業を安定して持続していくために、中長期的な視点に立ち、施設更新需要の見通しについて検討し、着実な更新投資を行う必要があります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	施設再編基本構想の策定 長期的な視点に立ち、より効率的な施設整備を進めるため、水需要の減少に応じた施設規模の適正化や施設再構築など、今後の施設整備の方向性を示す構想を策定 【浄配水施設再編基本構想策定業務委託】平成30～令和元年度	施設再編基本構想の策定 長期的な視点に立ち、より効率的な施設整備を進めるため、水需要の減少に応じた施設規模の適正化や施設再構築など、今後の施設整備の方向性を示す構想を策定 【浄配水施設再編基本構想策定業務委託】平成30～令和元年度	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			27,000,000					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) 人	0.6	0.6	100%	0.6					
	期間 (d) 年	1	1		1					
	単位あたりの 作業量 (c/d)	0.6	0.6		0.6					
	人/年	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	◆中長期的な更新需要の見直し 更新需要の見直しと財政収支見通しの検討を継続的に行うため、アセットマネジメントワーキンググループで健全度評価手法の検討を進めています。 また、効率的・効果的な施設更新を進めるため、前期での課題を踏まえ、中期以降の整備内容及びスケジュールの見直しを実施しました。	施設再編基本構想の策定 長期的な視点に立ち、より効率的な施設整備を進めるため、水需要の減少に応じた施設規模の適正化や施設の再構築を進める必要があります。今後の施設整備の方向性を示す構想を策定するにあたり、浄配水施設再編基本構想策定業務に着手し、地域別の水需要予測及び施設整備上の課題整理を実施しました。 【浄配水施設再編基本構想策定業務委託】平成30～令和元年度								
	◆施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 今後の資産管理において必要となる情報やその管理方法について、アセットマネジメントワーキンググループで検討を進めています。	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	浄配水施設再編基本構想策定業務		1点							
	平均 (A)	1.0点			平均 (A)			平均 (A)		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)
施設整備計画等の 策定状況	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	施設整備課題の整理	施設再編基本構想策定	施設整備計画見直し	施設整備課題の整理	実施	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	浄配水施設再編基本構想策定業務に着手し、施設整備上の課題整理を実施しました。なお、本業務は債務負担行為によるもので、平成30年度の予算計上および執行はありませんでした。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	水需要が減少するなか、水道事業を安定して持続していくためには、中長期的な視点に立った施設整備計画を策定する必要があります。今年度着手した浄配水施設再編基本構想策定業務について、来年度以降も計画通り業務を進めていきます。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	経営基盤の強化	事業・取組名	V-2	定員・給与の適正化	所管課	総務課
----	---	---------	--------	-----	-----------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	独立採算で運営する水道事業は、最小のコストで最大の効果を得るよう努める必要があります。健全な運営のために求められる人的資源の最適化を常に追求しつつ、事業運営の効率化を推進します。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	定員の適正化 ・職員数については、再任用職員を含めた定員管理を実施するとともに、引き続き業務の見直しなどを図り、定員の適正化を進めます。 給与の適正化 ・職員給与については、市長事務部局および他政令市の状況に準じた見直しを図ります。	定員の適正化 ・職員数については、再任用職員を含めた定員管理を実施するとともに、引き続き業務の見直しなどを図り、定員の適正化を進めます。 給与の適正化 ・職員給与については、市長事務部局および他政令市の状況に準じた見直しを図ります。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			0					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	480時間	480時間	100%	480時間					
	期間 (d) (作業従事職員数)	2人	2人		2人					
	単位あたりの 作業量 (c/d)	240時間	240時間		240時間					
	(1人あたりの年間作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度				
	定員の適正化 ・平成29年度より委託する料金収納業務について業務分析を行い、適正な人員を削減しました。 ・年度末職員数 349名 給与の適正化 ・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施しました。	定員の適正化 ・再任用職員を含めた定員管理により、適正な人員を配置しました。 ・年度末職員数 350名 給与の適正化 ・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施しました。										
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下
	定員の適正化	2点										
	給与の適正化		1点									
	平均 (A)	1.5点			平均 (A)				平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
職員数(人)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	351人以下	351人以下	351人以下	350人	101%	4点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	4点							
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 職員定数については、今後の業務見直しや再任用職員数の増減等を考慮し、次年度体制を見据えた中で、適正に行うことができました。 給与改定については、市長部局の改正に連動して、遅滞なく実施することができました。 <p>(職員定数、給与とも、経費を伴う事業的側面を有しないことから、予算執行率を「予定どおり」とみなして算出します。)</p>								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 再任用職員を含めた適正な人員管理を実施した結果、目標職員数である351人以下を達成し、適正な定数管理を行うことが出来ました。 給与は市長部局の改正のタイミングに併せ、同じ水準で見直しを行いました。 								
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	経営基盤の強化	事業・取組名	V-3	業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	所管課	経営管理課
----	---	---------	--------	-----	---------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	事業の経営責任を確保しながら、経済的かつ効率的にお客さまサービスの維持向上を図るため、新たな民間委託の導入に向けた検討を進め、効果が見込める業務について積極的に委託化に取り組みます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	新たな業務委託の実施に向けた調査・検討 ・経済性と効率化の観点や他都市の状況も含めた調査・検討を実施します。	新たな業務委託の実施に向けた調査・検討 ・経済性と効率化の観点や他都市の状況も含めた調査・検討を実施します。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			0					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働月数)	1月	1月	100%	1月					
	人員 (d) 作業従事職員数	2人	2人		2人					
	単位あたり の作業量 (c/d) (1人あたりの作業量)	0.5ヶ月/人	0.5ヶ月/人		0.5ヶ月/人					
		(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	業務委託を目標通り実施しました。 予算に対する執行額は予定されていた 金額で実施しました。	経済的かつ効率的にお客さまサービスの維持向上を図るため、新たな民間 委託の導入に向け、他都市の状況も含めた調査・検討を実施しました。								
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	民間委託導入に向けた調査・検討		1点							
	平均 (A)	1.0点			平均 (A)			平均 (A)		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
新たな業務委託に 向けた調査・検討	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	3点							
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	経済的かつ効率的にお客さまサービスの維持向上を図るため、新たな民間委託の導入に向け調査をしました。 また、予算効率は事業の性質上予算計上及び執行はありませんでした。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	事業経営責任を確保しながら、経済的かつ効率的にお客さまサービスの維持向上を図るため、新たな民間委託の導入に向け調査をしました。 引き続き、他都市の状況も含めた調査・検討を行います。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	経営基盤の強化	事業・取組名	V-4	遊休資産の有効活用	所管課	経営管理課
----	---	---------	--------	-----	-----------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	施設統廃合計画により廃止となった浄配水場等の遊休資産を有効活用することにより、財政基盤の強化を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究・施設有効活用の実施・それぞれの立地状況に応じた有効活用が出来るよう調査・研究を継続します。	施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究・施設有効活用の実施・それぞれの立地状況に応じた有効活用が出来るよう調査・研究を継続します。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			0					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	56時間	56時間	100%	56時間					
	時間 (h)									
	期間 (d)	2人	2人		2人					
	作業従事職員数									
単位あたりの 作業量 (c/d)	28時間	28時間		28時間						
h / 人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度				
	・太陽光発電用地としての有償貸付（20年間）[小須戸浄水場跡地、岩室浄水場跡地、月潟配水場跡地]の契約、設置工事の開始、発電の開始をしました。	・太陽光発電用地としての有償貸付[旧新津浄水場跡地]のための準備を行いました。										
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		太陽光発電用地としての有償貸付準備	1点		太陽光発電用地としての有償貸付							
		施設有効活用に向けた情報収集や調査・研究の継続	1点		施設有効活用に向けた情報収集や調査・研究の継続							
	平均 (A)	1.0点			平均 (A)				平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)	実績(D)		達成度(D/B)
有効活用の調査・研究・施設有効活用の実施	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	情報収集 調査・研究	情報収集 調査・研究	情報収集 調査・研究	実施	実施		3点					
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		
	-	-	-	-	-	3点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■ 評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	遊休資産の活用に向け、調査・研究を行いました。 予算効率は事業の性質上予算計上及び執行はありませんでした。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	旧新津浄水場跡地において、太陽光発電用地としての賃貸借契約に向け準備を行いました。 引き続き、遊休資産活用に向けた調査・検討を行っていきます。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

【方向性】	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	経営基盤の強化	事業・取組名	V-5	時代に即した料金制度等の検討・実施	所管課	経営管理課
----	---	---------	--------	-----	-------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	水需要や財政収支の状況を踏まえ、将来にわたり安全な水の安定供給の持続が可能となるよう、維持管理・更新の時代に即した料金制度の検討を行います。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	料金体系の調査・研究、見直し案の検討。 ・他事業体の料金体系の調査・研究、見直し案の検討を実施します。 料金改定の必要性、時期、水準の検討 ・調査・研究をします。	水道料金の将来的なあり方について検討。 ・他事業体の料金体系の調査・研究、見直し案の検討を実施します。 料金改定の必要性、時期、水準の検討 ・調査・研究をします。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			0					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	22.3 時間	22.3時間	100%	22.3 時間					
	人員 (d) 作業従事職員数	2人	2人		2人					
	単位あたり の作業量 (c/d)	11.1時間	11.1時間		11.1時間					
	(1人あたりの作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度				
	他政令市と県内市町村の料金改定状況を調査し、口径別料金比較供給単価比較(政令市)を行いました。	他政令市と県内市町村の料金改定状況を調査し、口径別料金比較供給単価比較(政令市)を行いました。 予算効率率は、事業の性質上予算計上及び執行はありませんでした。										
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	料金体系の調査・研究、見直し案の検討		1点									
	料金改定の必要性、時期、水準の検討		1点									
	平均 (A)	1.0点			平均 (A)				平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
料金制度見直し案の 調査・研究	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	調査・研究	調査・研究	調査・研究	実施	実施	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	他政令市と県内市町村の料金改定状況等を調査し、比較検証を行いました。 また、予算効率率は事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	時代に即した料金制度等の検討のための、基礎資料の収集を行いました。 また、重要な事業取組であることから、持続可能な経営を構築することを目的に、社会情勢や財政収支などを見据えながら、引き続き調査研究を行います。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	経営基盤の強化	事業・取組名	V-6	水道事業経営審議会の効果的運用	所管課	経営管理課
----	---	---------	--------	-----	-----------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	水道事業経営審議会を継続し、有識者や水道利用者などの第三者の意見や助言を事業運営に効果的に反映させます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	水道事業経営審議会の継続運営 ・水道事業の予算、決算や事業の進捗状況や評価などについての意見・提 言などを事業運営に反映します。	水道事業経営審議会の継続運営 ・水道事業の予算、決算や事業の進捗状況や評価などについての意見・提 言などを事業運営に反映します。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	437,899			469,000					
	執行額 (b)	424,884								
	執行率 (%) (b) / (a)	97%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	126時間	1 2 6 時間	100%	126時間					
	人員 (d) 作業従事職員数	3人	3人		3人					
	単位あたり の作業量 (c/d)	42時間	42時間		42時間					
	(1人あたりの作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度				
	審議会を9月と11月と3月の3回開催しました。審議会の議事録は、会議資料と合わせ、局ホームページに掲載しました。	水道事業経営審議会を（3回/年）を開催し、意見・提言・助言をいただきました。審議会の議事録は会議資料と合せ、局ホームページに掲載しました。 平成31年3月に委員1名の改選があり、再任1名就任いただきました。										
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		水道事業経営審議会の継続運営	1点									
		平均 (A)	1.0点			平均 (A)				平均 (A)		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
予算・決算・新・マスタープラン事業実施状況に対する意見・提言の聴取と反映	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	0点	実績(D)	達成度(D/B)		実績(D)	達成度(D/B)	
	実施	実施	実施	実績(D)	達成度(D/B)		3点	実績(D)		達成度(D/B)	3点	
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	—	—	—	—	—	3点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)		実績(D)	達成度(D/B)		実績(D)	達成度(D/B)	
				実績(D)	達成度(D/B)			実績(D)		達成度(D/B)		
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)		実績(D)	達成度(D/B)		実績(D)	達成度(D/B)	
				実績(D)	達成度(D/B)			実績(D)		達成度(D/B)		
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)		実績(D)	達成度(D/B)		実績(D)	達成度(D/B)	
				実績(D)	達成度(D/B)			実績(D)		達成度(D/B)		
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)		実績(D)	達成度(D/B)		実績(D)	達成度(D/B)	
				実績(D)	達成度(D/B)			実績(D)		達成度(D/B)		
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	水道事業経営審議会を3回開催し、委員1名の改選も予定通り実施できました。予算効率・作業効率も予定枠内となり、目標どおり達成しています。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C 6点/10点	作業効率		0点/10点	作業効率		0点/10点
	外的要因加点	0点		外的要因加点			外的要因加点		
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	今年度は、水道事業経営審議会を3回開催し、予算・決算及び、新・マスタープランの事務事業に対する平成29年度分の2次評価及び前期実施分の評価をいただきました。 引き続き、水道事業経営審議会を開催し、意見や助言を事業運営に反映し、信頼される水道事業を目指します。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C 6点/10点	進捗度		0点/10点	進捗度		0点/10点
	外的要因加点	0点		外的要因加点			外的要因加点		

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-1	戦略的な広報の実施	所管課	総務課
----	----	---------------------	--------	------	-----------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	「新潟市水道局広報戦略」～広報活動の考え方～に基づき、継続的に広報計画を策定し、効果的な広報活動を展開します。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	○広報計画に沿った広報活動の実施 ・独自イベントによる広報（水道週間行事、施設見学） ・お客さまに直接働きかける広報（災害パネル展示、出張授業、各種イベントへの出店） ・デジタルメディアを活用する広報（インターネット） ・紙媒体による広報（広報紙、検針票裏面、パンフレット） ・漫画を活用する広報（小学生向けパンフレット、工事看板）	○広報計画に沿った広報活動の実施 ・独自イベントによる広報（水道週間行事、施設見学） ・お客さまに直接働きかける広報（災害パネル展示、出張授業、各種イベントへの出店） ・SNSを活用する広報（フェイスブック） ・紙媒体による広報（広報紙、検針票裏面、パンフレット） ・漫画を活用する広報（小学生向けパンフレット、工事看板）	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	39,517,000			39,053,000					
	執行額 (b)	40,344,835								
	執行率 (%) (b) / (a)	102%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	2880時間	2880時間	100%	2880時間					
	期間 (d) (実働月数)	12カ月	12カ月		12カ月					
	単位あたり の作業量 (c/d) (1月あたりの作業時間)	240時間	240時間		240時間					
		(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	水道週間行事を見直したり、他団体のイベントに積極的に参加し、水道水のおいしさや安全性をアピールするとともに、管路更新事業や浄水場改良事業といった重点施策についても説明することができました。 小学4年生を対象とした出張授業では、当初予定していた回数から大幅に増やして実施しました。(10回⇒25回)局HPのトップページをお客さまにとって見やすくするよう改修するとともに、SNS (Facebook) を活用した広報も始めるなどインターネットを活用した広報の充実を図りました。 これらの施策を通して幅広い層へ水道局の魅力を発信できていると考えています。 また、広報紙 (水先案内) へ有料広告を掲載し、水道料金以外の収入も確保できました。	様々なイベントに積極的に参加し、水道水のおいしさや安全性をアピールするとともに、広報紙などで管路更新事業や浄水場改良事業といった重点施策について説明しました。 また、小学4年生を対象とした出張授業、SNS (フェイスブック) の活用など幅広い年齢層への情報発信も行いました。 これらの施策を通して幅広い層へ水道局の魅力を発信できていると考えています。								
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		平均 (A)	平均 (A)			平均 (A)			平均 (A)	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
お客さまアンケートにおける 広報紙「水先案内」 の認知度	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	72%以上	—	72%以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	※平成30年度は「お客さまアンケート」を実施しなかったため、「お客さまアンケート」における広報紙「水先案内」の認知度は評価対象外します。								
評価結果	予算効率	—	総合評価	予算効率	—	総合評価	予算効率	—	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	—	—	作業効率	—	—	作業効率	—	—
	外的要因加点	—	0点/10点	外的要因加点	—	0点/10点	外的要因加点	—	0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	※平成30年度は「お客さまアンケート」を実施しなかったため、「お客さまアンケート」における広報紙「水先案内」の認知度は評価対象外します。								
評価結果	達成度	—	総合評価	達成度	—	総合評価	達成度	—	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	—	—	進捗度	—	—	進捗度	—	—
	外的要因加点	—	0点/10点	外的要因加点	—	0点/10点	外的要因加点	—	0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-2	お客さまの意見・要望の把握	所管課	総務課
----	----	---------------------	--------	------	---------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	本市水道事業における基本理念である「すべてのお客さまに信頼される水道」を実現するためには、お客さまが水道事業に求めるものを的確に把握して施策に反映させるなど、お客さまの視点に立った事業運営に努める必要があります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	○お客さまアンケートの実施 ・お客さまアンケートを継続的に実施することにより、お客さまの水道事業に対する意見・要望を的確にとらえ、事業運営の基礎資料とします。 ○水道モニター制度運用 ・水道モニター制度を継続実施します。 ・モニターの皆さんから水道事業への提言をいただき、事業運営の参考とします。 ・いただいた提言は、ホームページで公表します。	○お客さまアンケートの実施 ・お客さまアンケートを継続的に実施することにより、お客さまの水道事業に対する意見・要望を的確にとらえ、事業運営の基礎資料とします。 ○水道モニター制度運用 ・水道モニター制度を継続実施します。 ・モニターの皆さんから水道事業への提言をいただき、事業運営の参考とします。 ・いただいた提言は、ホームページで公表します。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	2,108,501			2,043,279					
	執行額 (b)	208,501								
	執行率 (%) (b) / (a)	10%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	180時間	120時間	66%	180時間					
	期間 (d) (実働月数)	12カ月	8カ月		12カ月					
	単位あたり の作業量 (c/d) (1月あたりの作業時間)	15時間 (ア)	10時間 (イ)		15時間 (ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度				
	公募により23名の水道モニターでスタートしましたが、様々な理由により途中で辞退された方もおり最終的に18名となりました。研修会や施設見学など計4回開催しました。 予定していたメニューをすべて消化したほか、モニターからの個別の要望にも応えるなど積極的に活動しました。 活動内容も研修会ごとに当日学んだことをグループ討議手法を使うことで、最終的なモニター提言とりまとめにスムーズに入れるよう工夫しながら実施しました。 平成25年度以来となる事業者向けのアンケートを予定通り行い、水道局に対する満足度や災害に対する意識などを調査しました。	公募により22名の水道モニター（終了時16名）による研修会、施設見学などを計4回開催しました。予定したメニューは消化し、内容としては活発な意見交換が期待できるグループ討議を行いました。 なお、お客さまアンケートについては、新・マスタープラン後期実施計画への反映、費用対効果の観点から、平成31年度実施へ変更しました。										
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	
		水道モニター制度運用		1点								
		お客さまアンケート			0点							
	平均 (A)	0.5点			平均 (A)				平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
お客さまアンケートの実施	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施(一般家庭)	—	実施(一般家庭)	未実施	未実施	1点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
水道モニター活動回数 (モニター会議、施設 見学会、提言発表会 等開催数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	4回	4回	4回	4回	100.0%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	水道モニター制度運用については、効率的に実施できました。 なお、お客さまアンケートについては、新・マスタープラン後期実施計画への反映、費用対効果の観点から、平成31年度実施へ変更しました。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	水道モニター制度運用については、予定通りのプログラムを遂行できたことから、水道モニターから水道事業についての理解を得ることができました。 なお、お客さまアンケートについては、新・マスタープラン後期実施計画への反映、費用対効果の観点から、平成31年度実施へ変更しました。								
評価結果	達成度	2点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	2点	D	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	4点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-3	分かりやすい経営情報の開示	所管課	経営管理課
----	----	---------------------	--------	------	---------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	これからの水道事業に要する費用負担のあり方や経営の効率化に対する取組みなどについて、分かりやすくお客さまにお知らせし、水道事業経営の透明性の向上を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	・料金設定の仕組み（水道料金計算方法等）およびコスト情報の提供 ・経営効率化に関する取組み情報の提供	・料金設定の仕組み（水道料金計算方法等）およびコスト情報の提供 ・経営効率化に関する取組み情報の提供	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			0					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	79時間	79時間	100%	79時間					
	期間 (d) 作業従事職員数	6人	6人		6人					
	単位あたり の作業量 (c/d)	13.1時間	13.1時間		13.1時間					
	(1人あたりの作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度					
	<ul style="list-style-type: none"> 「他都市料金比較」、「決算概要」を広報紙「水先案内」に掲載しました。 水道事業ガイドライン業務指標及び平成28年度事務事業評価の結果をホームページで公表しました。また、総務省通知「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」に基づき、平成28年度水道事業会計決算の経営比較分析表を、ホームページで公表しました。 新・マスタープラン中期実施計画を策定し、ホームページで公表しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 「他都市料金比較」、「料金収入」及び「決算概要」を広報誌「水先案内」に掲載しました。 水道事業ガイドライン業務指標及び平成29年度事務事業評価の結果、新・マスタープラン前期実施計画の結果をホームページで公表しました。また、総務省通知「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」に基づき、平成29年度水道会計決算の経営比較分析表をホームページで公表しました。 											
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		料金設定の仕組み（水道料金計算方法等）及びコスト情報の提供		1点									
		経営効率化に関する取組情報の提供		1点									
		平均 (A)	1.0点			平均 (A)			平均 (A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
料金設定の仕組み(水道料金計算方法等)およびコスト情報の提供 (ホームページおよび水先案内に掲載)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上(2回)	100%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
経営効率化に関する取組情報の提供 (ホームページおよび水先案内に掲載)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上(2回)	100%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■ 評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	料金設定の仕組み(水道料金計算方法等)及びコスト情報、経営効率化に関する取組情報の提供を予定通り行いました。事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	料金設定の仕組み(水道料金計算方法等)及びコスト情報、経営効率化に関する取組情報の提供について、イラストや図表、分かりやすい内容で広報誌「水先案内」及びホームページで提供しました。引き続き分かりやすい内容での情報提供となるよう努めていきます。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-4	放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	所管課	経営管理課
----	----	---------------------	--------	------	-------------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	放射性物質を含む浄水汚泥について、厳重な保管・管理を徹底するとともに、水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度の検査結果、浄水場等における放射線量などについて、お客さまに対し情報提供を行います。						
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度			令和元年度			令和2年度
	厳重な保管・管理・処分、有効利用、検査、情報提供等の実施 ・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理 ・通常発生する200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効利用を継続 ・継続保管している8,000Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の一部を処分 ・水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量などの検査の継続 ・ホームページ等による検査結果の情報提供を継続 ・8,000Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分について、国・県への積極的な要望を継続			厳重な保管・管理・処分、有効利用、検査、情報提供等の実施 ・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理 ・通常発生する200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効利用を継続 ・継続保管している8,000Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥を全量処分 ・水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量などの検査の継続 ・ホームページ等による検査結果の情報提供を継続 ・8,000Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥（指定廃棄物）の処分について、国・県への積極的な要望を継続			

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0 (732,997,970)			0 (678,613,375)					
	執行額 (b)	0 (506,514,865)								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	627.5	1055.8		1055.8					
	時間 (h)									
	人員 (d)	62人	70	149%	70					
	作業従事職員数									
単位あたり の作業量 (c/d)	10.1	15.1		15.1						
h / 人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度					
	・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理を行いました。 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効活用及び水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量の検査を継続して行いました。また、調査した検査結果は、ホームページ等で情報提供を行いました。 ・継続保管している8,000Bq/kg以下の浄水汚泥の一部について、有効利用を行いました。 ・8,000Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分については、環境省及び新潟県に日水協新潟県支部として要望書の提出を行いました。	厳重な保管・管理・処分、有効利用、検査、情報提供等の実施 ・放射性物質を含む浄水汚泥を厳重に保管・管理しました。 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥を有効活用しました。 ・8,000Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の一部を処分しました。 ・水道水、河川水及び浄水汚泥の放射性物質濃度並びに浄水場周辺の放射線量を検査しました。 ・放射性物質濃度及び放射線量の検査結果をホームページ等で情報提供しました。 ・8,000Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分について、環境省及び新潟県に対して、日水協新潟県支部として要望書を提出しました。											
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		厳重な保管・管理・処分、有効利用、検査、情報提供等の実施		1点									
		平均 (A)		1.0点		平均 (A)				平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
汚泥保管施設における放射線量測定結果の 情報開示の継続	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	開示	開示	開示	開示	開示		3点					
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
-	-	-	-	-	3点							
放射性物質濃度の分析調査結果の 情報開示の継続	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	開示	開示	開示	開示	開示		3点					
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
-	-	-	-	-	3点							
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	・8,000Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の処分方法及び日程の変更により、当初予定した処分数量を下回ったため、一部予算が不用となりました。 ・8,000Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の処分に関して、検査及び搬出などの作業量増加により、総作業量が予定以上となりました。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価 C	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	2点		作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	「汚泥保管施設における放射線量測定」及び「放射性物質濃度の分析調査」の結果について、お客さまに対して適切に情報を開示しました。								
評価結果	達成度	3点	総合評価 C	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点		進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VII	技術・知識を有する人材の確保と育成	事業・取組名	VII-1	人材育成と専門性の強化	所管課	総務課
----	-----	-------------------	--------	-------	-------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	水道事業は専門性が高いために継承すべき技術が多く、施設整備計画の策定、設計施工管理、危機管理および現場対応力など、これらはいずれも高度な知識と経験が求められます。事業の持続のためには、専門知識と実務経験を併せ持つ職員の確保と育成が重要となります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	<ul style="list-style-type: none"> ○技術系新規採用職員の独自採用、教育配転の実施 ・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続します。 ・新規採用職員のジョブローテーションの指針に従って教育配転を行います。（以上、職員係） ○各種研修の実施 ・新潟市水道局職員研修基本計画に基づく研修を確実に実施し、研修計画を適宜、見直しながら充実を図ります。 ○水道研修センターの効果的運用 ・水道研修センターの効果的運用を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○技術系新規採用職員の独自採用、教育配転の実施 ・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続します。 ・新規採用職員のジョブローテーションの指針に従って教育配転を行います。 ○各種研修の実施 ・新潟市水道局職員研修基本計画に基づく研修を確実に実施し、研修計画を適宜、見直しながら充実を図ります。 ○水道研修センターの効果的運用 ・水道研修センターの効果的運用を図ります。 	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	4,185,800			4,035,800					
	執行額 (b)	2,601,355								
	執行率 (%) (b) / (a)	62%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	1900時間	1900時間	100%	1900時間					
	期間 (d) (作業従事職員数)	1人	1人		1人					
	単位あたり の作業量 (c/d) (1人あたりの年間作業時間)	1900時間	1900時間		1900時間	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度			
	<p>・専門別研修を、今まで以上に効率的に実施できるよう、講座ごとの時間割の整理や日程の短縮など、研修のあり方や実施方法について検討しました。</p> <p>また、係長3年目研修・10年目研修の実施方法の検討も行いました。</p> <p>これらの内容を盛り込んだ、職員研修基本計画の改訂を行い、平成30年度からの実施に向け準備しました。</p> <p>・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続するとともに、既卒者及び民間企業等経験者などを対象とした特別枠採用試験を実施し、人材の確保に努めました。</p> <p>・新規採用職員（技術職）のジョブローテーションの指針に従った教育配転を行いました。</p> <p>・職員研修基本計画に基づいた研修を行いました。</p> <p>・水道研修センターについては、計画的な研修に活用したほか、積極的な実施を推奨している職場内OFF-JTの会場としても活用しました。</p>	<p>予定を上回る 101%以上</p>	<p>予定どおり 90%~ 100%以下</p>	<p>予定を下回る 90%未満~</p>	<p>予定を上回る 101%以上</p>	<p>予定どおり 90%~ 100%以下</p>	<p>予定を下回る 90%未満~</p>				
		技術系新規採用職員の独自採用、教育配転		1点							
		各種研修の実施		1点							
		水道研修センターの運用		1点							
平均 (A)		1.0点			平均 (A)			平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
年間内部研修実施 時間 (延べ年間研修時間 /年度末職員数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	16.5時間/人	17.1時間/人	17.8時間/人	15.5時間/人	93.9%	3点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	—	—	—	—	3点							
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	予算の範囲内で、必要な研修を効率的に実施した。								
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	・職場内OFF-JTを推奨し、目標値こそ下回ったが概ね必要な研修時間の確保ができた。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VII	技術・知識を有する人材の確保と育成	事業・取組名	VII-2	諸外国との水道技術研究交流	所管課	総務課
----	-----	-------------------	--------	-------	---------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	我が国の水道事業は高度な技術のもと管理・運営されており、世界のトップランナーとして国際的にも高い評価を得ていることから、その技術・経験を国際貢献・国際協力に生かすことが期待されています。本市においても、水道技術の国際交流を通じた中で、国際的な視野と見識を持った人材の育成を図ります		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	国際会議等への積極的な参加 ・水道技術国際シンポジウムへの参加 ・自治体水道国際展開プラットフォームへの参加 ・国際水協会世界会議への参加 インターンシップの受入 ・外国人留学生のインターンシップ受入（新潟大学との共同事業）	国際会議等への積極的な参加 ・水道技術国際シンポジウムへの参加 ・自治体水道国際展開プラットフォームへの参加 ・日米台水道地震対策ワークショップへの参加（隔年開催） インターンシップの受入 ・外国人留学生のインターンシップ受入（新潟大学との共同事業）	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	1,842,600			624,697					
	執行額 (b)	613,207								
	執行率 (%) (b) / (a)	33%								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	12時間	9時間		12時間					
	期間 (d) (作業従事職員数)	1人	1人	75%	1人					
	単位あたり の作業量 (c/d)	12時間	9時間		12時間					
	(1人あたりの年間作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	・国際会議等に積極的に職員を派遣し、先進都市の諸外国への貢献事例等の情報収集を行いました。 ・台湾で開催された日米台水道地震対策ワークショップに1名参加（H29.10） ・東京都で開催された自治体水道国際展開プラットフォームに1名参加（H30.1）	○国際会議等に積極的に職員を派遣し、先進都市の諸外国への貢献事例や課題、方向性等の情報収集を行いました。 ・東京都で開催された自治体水道国際展開プラットフォームに1名参加（H31.1） ・東京都で開催された国際水協会世界会議に7名参加（H30.9） ○外国人留学生2名のインターンシップを受け入れました。（H30.8.29-9.14）								
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	自治体水道国際展開プラットフォームへの参加		1点							
	国際水協会世界会議への参加		1点							
	国際インターンシップの受け入れ		1点							
	水道技術国際シンポジウム等への参加			0点						
平均 (A)	0.8点			平均 (A)			平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
国際研修等への 参加人数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	4人	3人	2人	8人	200.0%	5点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	—	—	—	—	—	5点						
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	・国際会議への参加を通じて、先進都市の諸外国への貢献事例等の最新情報を収集することができました。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	・会議での報告内容や、参加者間での意見交換及び、国際インターンシップの受け入れを通じた外国の方との交流を通して、国際的視野及び知識を持った人材の育成につなげていくことができました。								
評価結果	達成度	5点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	5点	A	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VIII	環境に配慮した事業運営	事業・取組名	VIII-1	建築副産物の再利用促進	所管課	技術管理室
----	------	-------------	--------	--------	-------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	建設副産物の再利用により、CO2排出量の削減や省エネルギー化を図り、環境保全への社会的責任を果たします。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化することを継続します。 ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土を改良し、埋戻し材としての再利用を進めます。再生土を利用した工事の発注を継続して実施すると共に、再利用箇所の精査を行い、率の向上に繋がります。	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化することを継続します。 ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土を改良し、埋戻し材としての再利用を進めます。再生土を利用した工事の発注を継続して実施すると共に、再利用箇所の精査を行い、率の向上に繋がります。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			0					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c) (実働時間)	10時間	10時間	100%	10時間					
	期間 (d) (作業従事職員数)	2人	2人		2人					
	単位あたり の作業量 (c/d) (1人あたりの年間の作業時間)	5時間	5時間	(イ/ア)	5時間	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度				
	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材を再生プラントにて再資源化しました。(再生率100%) ・建設発生土について、埋戻しに適する発生土は再利用し、適さない発生土は良し再利用しました。(再生率18.5%)	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化しました。(再生率100%) ・建設発生土について、埋戻しに適するものは再利用し、埋戻しに適さないものは再生プラントへの搬入が可能であれば改良し、再利用しました。(再生率3.8%)										
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	改良土の利用促進		1点									
	平均 (A)	1.0点			平均 (A)			平均 (A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
建設副産物の リサイクル率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	40%	40%	40%	68%	168.8%	5点						
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	5点							
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	建設副産物全体のリサイクル率を向上させるため、今後も改良土の利用を促進していきます。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	改良土を使用する幹線更新工事が、市内中心部に集中してきた事により、渋滞等の発生を抑制するため、夜間工事が増加しています。そのため、再生プラントへの発生土搬入が出来ず、改良土を利用する工事が減少して、改良土の利用促進が進まない状況ですが、アスファルト廃材とコンクリート廃材については今後も100%の再利用を行います。 なお、国土交通省による副産物の集計方法の変更に伴い、発生土の処分先を砂利採取後の埋戻しに使用した場合、再生に計上できることとなったため、リサイクル率が上昇しました。								
評価結果	達成度	5点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	5点	A	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VIII	環境に配慮した事業運営	事業・取組名	VIII-2	水道局環境計画の策定と推進	所管課	経営管理課
----	------	-------------	--------	--------	---------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	水道局として環境負荷の少ない水作りを推進するため、環境負荷低減に向けた取り組みを推進していきます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画（予定）	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	再生可能エネルギー等の有効活用 ・施設整備に併せ、再生可能エネルギー等の有効活用を検討。 環境報告書の作成・公表 ・環境報告書の作成および公表を実施します。 省エネルギー対策の推進 ・施設整備に併せ省エネルギー型の施設・設備に切り替えます。	再生可能エネルギー等の有効活用 ・施設整備に併せ、再生可能エネルギー等の有効活用を検討。 環境報告書の作成・公表 ・環境報告書の作成および公表を実施します。 省エネルギー対策の推進 ・施設整備に併せ省エネルギー型の施設・設備に切り替えます。	

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	予算額 (a)	0			0					
	執行額 (b)	0								
	執行率 (%) (b) / (a)	-								
【時間・体制 (人員)】 時間 (人員) は どれくらい かけたか	年度	目標	平成30年度	対目標	目標	令和元年度	対目標	目標	令和2年度	対目標
	総作業量 (c)	50時間	50時間	100%	50時間					
	時間 (h)									
	人員 (d)	2人	2人		2人					
	作業従事職員数									
単位あたりの作業量 (c/d)	25時間	25時間		25時間						
h / 人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	29年度実績	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	環境報告書を作成し、ホームページ等に公表するなど、環境施策の情報提供を行いました。 阿賀野川浄水場整備事業でポンプ設備の入替に伴い省エネルギー型ポンプの導入を行いました。	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~	予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		・水道局環境計画の運用	1点							
		・環境報告書の作成・公表	1点							
		・省エネルギー対策の推進	1点							
平均 (A)	1.0点			平均 (A)			平均 (A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	平成30年	令和元年度	令和2年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
環境報告書の 作成・公表	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績	3点							
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	3点							
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでしたので、予算の執行率は予定通りとみなして評価しました。 事業取り組みとしては、環境計画の運用や環境報告書の作成・公表を予定通り実施しました。								
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率		総合評価	予算効率		総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率			作業効率		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	環境報告書の策定、公表を行い、環境施策と効果について市民に情報提供を行いました。 進捗度は事業の性質上評価ができませんでした。								
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度		総合評価	達成度		総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度			進捗度		
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点		0点/10点	外的要因加点		0点/10点

④ 2次評価結果

	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】			

施策	事業・取り組み	質問	局回答	担当課
I 水質管理の充実・強化	I-1 水源水質の監視	・評価管理シートを拝見しますと「『年間100件程度発生している水質事故』について、水系全体の影響を未然に防ぎました」との説明がございませう。水質事故について、発生原因などを教えてください。	・水質事故は、油流出、薬品流出、魚類斃死などがあり、県内で発生した水質事故の9割近くが油流出事故となっており、その原因の大半が、個人宅における取扱い不注意で、灯油が漏えいした事案になります。	水質管理課
		・浄水場で、塩分が取水口付近まで遡上する事があると伺いました。年間の発生回数とその対策などを教えてください。	・昨年度、取水口まで塩分が遡上した回数は、信濃川で1回、阿賀野川で2回でした。これまで、信濃川では2回（S48,H30）、阿賀野川では6回（S59,S60,H2,H8,H14,H30）取水塔まで遡上しています。発生時の対策としては、阿賀野川では取水塔より上流の予備取水口（亀田郷土地改良区所有の取水設備）より取水しています。信濃川では、信濃川下流河川事務所と協議の上、本川大橋に設置している信濃川水門を操作することにより、遡上を抑制しています。	水質管理課 浄水課
		・水質事故時の緊急連絡体制の活用により、水質事故による水道水への被害を未然に防止することができた、とありますが平成30年度には何件ぐらい水質事故がありどのような対応をしたのでしょうか	・H30年度の信濃川及び阿賀野川の両水系で発生した水質事故件数については、136件となっております。水質事故発生時には、水系協議会における事故連絡体制により、上流域の情報収集や通報連絡を図ることで、浄水処理に影響がでないよう努めております。	水質管理課
	I-2 水安全計画の充実・適切な運用	・平成27年度、30年度「管理基準値を見直す」ことにより緊急時対応マニュアルを改訂しているが、そもそも管理基準値見直しのトリガーは何かあるのでしょうか。	・H27年度に実施した管理基準値の見直しについては、阿賀野川浄水場における実際の対応とマニュアルの内容の一部乖離があったため、実態に則したものに改訂しました。H30年度の改訂については、改訂した管理基準値による運用を振り返り、より精度の高い対応となるよう、改訂を実施しました。	水質管理課
		・阿賀野川浄水場で大幅な見直しを実施しました、との説明がございませう。どのような見直しをされたのか、信濃川と比較してご教示ください。	・塩分遡上への対応等、阿賀野川浄水場における実際の対応とマニュアルの内容に乖離があったため、実態に則したものに見直ししました。その他の浄水場については、今年度同様の視点で見直しを実施する予定です。	水質管理課
	I-3 水質管理体制の強化	・H29年度の一次評価は「効率性がB、有効性がC」でした。評価管理シートを拝見しますと、各評価事項は満足のいく内容であったと推測しました。H30年度の効率性がH29年度と比較して低下した理由を教えてください。	・予算効率については、水質検査に必要な機器類の状態を動かし、修繕用備品の交換時期を見直すことで、向上に努めております。H29年度については、H30年度と比較して、交換時期を見直した備品が多かったことに加え、機器の故障が少なく費用が抑えられたため、予算効率が向上しました。	水質管理課
		I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	・評価管理シートを拝見しますと「夏季の塩分遡上等により・・・河川水質の急激な変化にも対応できるよう、水質管理体制の強化を図る」との記述がございませう。河川水質の急激な変化には、原因毎に対策が異なるかと思われませう。どのような水質管理体制の強化を図るご予定なのか、ご教示ください。	・これまでの塩分遡上等への対応を踏まえ、各事象への迅速かつ適切な対応に資するべく、「I-2 水安全計画の充実・適切な運用」にある、浄水場における水安全計画等を見直すことで、近年の河川水質の変化に対して柔軟に対応できる体制を構築します。また、ご指摘の通り、原因毎に対策が異なるため、例えばシャーテストによる活性炭の注入率と効果の調査を行っております。
	・効率性評価では「調査研究は特別な予算を計上しておらず」としている一方、有効性評価では「今後とも調査研究を進める」としていますが、何か整合性がとれていないような表現ですが、いかがでしょうか。		・調査研究については、必要に応じて既存の機器や備品を使用しているため、調査研究のため新たに機器等を購入することはありません。	水質管理課
	I-5 分かりやすい水質情報の提供	・H29年度の一次評価は「効率性がB、有効性がB」でした。資料2（令和元年6月）の評価シートを拝見しますと、各評価事項は満足のいく内容であったと推測しました。H30年度の有効性がH29年度と比較して低下した理由を教えてください。	・当該評価の指標にある体験型広報については、市広聴課が自治会等の市内の団体等へ配布している冊子を介して、お客さまからの依頼により実施している活動や、見学対応の実績です。この性質上、H29年度についてはH30年度と比較して、その依頼が少なかったことが要因として考えられます。当該課としては、この結果を真摯に受け止め、なお一層お客さまが興味をもてるような広報活動ができるよう努めてまいります。	水質管理課
			・予算執行率62%で予算効率4点という評価だが、予算効率5点とはどのような場合ならなるのか（他の項目でも、予算効率の点数の付け方がわからない、どこかに説明されている箇所があるのか）	・予算効率62%で4点という評価については、予算の執行率が予定以下（～90%未満）で、かつ、【実施結果・効果】が予定通りであったため、参考資料の評価方法①に該当するため、4点となります。なお、点数が5点となる場合は、予算執行率が90%未満で【実施結果・効果】が予定を上回った場合、評価方法の②に該当するため5点の評価となります。
・有効性評価の総合評価はH27年度A、平成28年度A、平成29年度B、平成30年度Cと毎年度下がるのはなぜか		・当該評価の指標にある体験型広報については、市広聴課が自治会等の市内の団体等へ配布している冊子をみだ、お客さまからの依頼により実施している活動や、見学対応の実績です。この性質上、その依頼が年々減ってきていることが要因として考えられます。当該課としては、この結果を真摯に受け止め、なお一層お客さまが興味をもてるような広報活動ができるよう努めてまいります。	水質管理課	
	・便秘解消や血流改善に水を毎日約2L程の飲用が推奨されています。水道水に含まれる塩素の酸化力は、細胞の老化を早めるそうですが、ペットボトルに汲み置き、日光を当てると塩素が弱まるそうです。そうしてから冷蔵庫で冷やせば、天然水のように安心して飲めますといった、水道水の飲用が増える情報提供が可能になったらいいですね。	・塩素と細胞の老化の関係については、恐らく塩素の濃度によりその影響の程度が異なると考えられ、水道水レベルの塩素濃度が影響があるのかについては、定かではありません。本市の水道水の塩素濃度については、塩素由来の臭気を抑える観点から、概ね0.2～0.5mg/Lの範囲になるよう塩素濃度を制御し、配水しております。また、水道法では0.1mg/L以上の塩素濃度の保持が義務付けられているため、衛生上の観点から、当局がお客さまに対して、日光等により強制的に塩素濃度の低下させる等の行為を勧めることは難しいと考えます。	水質管理課	

II 給水装置における水質保持	II-1 学校施設の水飲み水柱の直結給水化	<ul style="list-style-type: none"> ・統合により貯水槽式を採用した学校が減少したため、直結給水率が上がったという理由で総合評価がBというのはいくらも、令和2年度の目標達成は可能なのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の改修にあたっては、当該年度の国庫補助の充当状況を踏まえ、最終的に教育委員会が対象校を決定しています。来年度の国庫補助の充当状況によっては、当初計画どおりに改修が施工されない状況も想定されることから、現時点で目標達成の見通しを立てるのは難しい状況にあります。有効性評価がBという評価になることについては、ご指摘のとおり直結給水化の増ではありませんが、一次評価の算出方法上、101%を超えるため、総合評価Bとなります。 	管路課 経営管理課
	II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> ・評価管理シートを拝見しますと「過去1年以上清掃報告の無い施設321件を対象に、訪問・電話指導を実施」との記述がございます。この指導によって清掃報告がなされた施設は何件ございましたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、訪問・電話指導の成果として、87件(27.2%)の清掃報告がありました。 	管路課
		<ul style="list-style-type: none"> ・民間業者との連携を実施したが、連携の具体化には至っていないと記載されているが、実施結果が予定を上回るという評価で良いのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は「貯水槽清掃強化月間」の設定には至らなかったものの、業界団体の依頼に基づき、「貯水槽の適正な衛生管理」に係る講演を実施し、意見交換を行うなど、今後の業界団体との連携具体化に向けた環境整備を進めたことを踏まえ「予定を上回る」と評価したものです。 	管路課
		<ul style="list-style-type: none"> ・何がネックで民間清掃業者との連携の具体化にいたらなかったのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度以前は、私どもの努力不足と業界団体側の消極的な姿勢から、意思疎通を図る機会に恵まれず、具体的な協議にまで進展できませんでした。 	管路課
	II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会未参加事業者へのフォロー体制、参加しやすい環境づくりの工夫など行っていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、水道法改正による指定の更新制度導入を控え、指定事業者向けの説明会において、給水装置工事に係る最近のトレンドや苦情事例について聴講の機会を設けることとし、来年度以降についても、指定更新の機会を捉え資料配布を実施するなど、事業者の資質向上に向けた取り組みを実施したいと考えています。 なお、これまでも県内4都市で講習会を開催し、いずれの会場でも受講可能な運用を図ることにより、受講者の便宜を図ってきましたが、更なる環境整備については、講習会の実施主体である公益社団法人日本水道協会新潟県支部の意向を確認のうえ、どのような工夫が可能なのか今後検討します。 	管路課
		<ul style="list-style-type: none"> ・講習内容に見直しの実効性及び内容の受講者への浸透度・理解度の確認などはどのような方法で行いますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の対応は検討中ですが、来年度以降は、指定更新の機会を捉えアンケートを実施するなど、理解度確認に向けた取り組みを実施したいと考えています。 	管路課

Ⅲ水道施設の計画的更新	Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新			
	Ⅲ-2 管路施設の計画的更新	<p>・H29年度の一次評価は「効率性がD、有効性がD」でした。昨年度、この理由は「中心市街地に集中」「工事の困難化」などであると、ご説明いただきました。資料2（令和元年6月）の評価シートを拝見しますと「市街地の工事に集中」とあります。委員の解釈では、市街地とは家屋や商業施設が密集した地域かと思います。H30年度は、市街地の工事に集中された（H29年度と同様）とのことで、昨年度と更新の対象地域が同様であったと理解しました。本年度、評価が向上したことは喜ばしいと思います。実施に当たり、どの様な点を改善されたのかご教示ください。</p>	<p>・事前に試掘調査を実施するなど、計画の実現性を高める工夫を行っています。また、工事単価の上昇も予算時に見込んだ範囲に収まっていたことから、評価が改善されたものと考えています。今後も中心市街地での更新が続き、工事の難易度が高く事業費の増加が見込まれますが、引き続き計画的に更新を進めていきます。</p>	計画整備課
	Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新			
Ⅳ震災対策・体制の強化	Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化			
	Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化			
	Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化			
	Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進	<p>・老朽化対応など優先事業や小ブロック構築済地域への工事から、構築率が計画比劣勢であることは理解できますが、構築率が低いことによるリスク顕在化時の影響はどのように考えているのでしょうか、また、その代替施策などは何かないのでしょうか。</p>	<p>・ブロック化の構築が遅れることで、未ブロック地域では、事故・災害時復旧などにおいて効率性に欠けるものの、現状と比較してただちにサービス水準が低下することはありません。なお、現時点では、代替施策は見当たらないものと考えます。</p>	管路課
	Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備			
	Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化	<p>・評価管理シートを拝見しますと「『にいがた防災アプリ』との連携し、拠点給水所の周知方法を拡充」との記述がございます。『にいがた防災アプリ』をインストールして拠点給水所の場所を確認しようと試みました。具体的には、当該アプリのトップページにある「操作方法等」を画面タッチし、「防災リンク集」を画面タッチすると「新潟市ホームページ」の下位メニューに「水道局からのお知らせ（給水所開設情報等）」がありました。当該メニューをクリックすると「水道局からのお知らせの一覧」が表示されました（2019.7.8参照）。平時のためか「給水所開設情報」は見当たりませんでした。資料2に記述のある「拠点給水所の周知方法を拡充」は、給水所の開設が実施されていない平時は、確認できないのでしょうか。そうだとすると、災害時等に拠点給水所はどのように案内されるのでしょうか。ご教示ください。</p>	<p>・拠点給水所を周知するひとつの方法として、「にいがた防災アプリ」に水道局ホームページのリンクを貼り付け、災害時における断水や拠点給水所の開設状況などの情報へのアクセスを可能としました。なお、これらの情報は、災害発生時のみ掲載されます。掲載する情報の例としては、断水地域を町丁名別に掲載し、開設した拠点給水所の名称と所在地を掲載します。</p>	経営管理課
	<p>・信濃川浄水場の住民用応急給水設備の事業見直しのための整備凍結とは</p>	<p>・現在、災害時においてより効果的な応急給水活動を行えるよう応急給水計画の見直しを行っております。具体的には、拠点給水所のあり方、浄配水場にてお客様に対して実施する応急給水の方法、設備の整備方針を再検討しています。これにより、予定していた整備を一時凍結しましたが、計画を見直したうえで再度整備を実施します。</p>	経営管理課	
	<p>・「にいがた防災アプリ」のダウンロード数等から、その有効性は如何なものでしょうか、また、高齢者など情報弱者へのフォローなど、更なるユーザー目線での情報提供方法の検討が必要と考えられます</p>	<p>・「にいがた防災アプリ」との連携は、拠点給水所を周知するひとつの方法として活用したものです。今後も外部メディアの更なる活用など多様化を図ることにより、お客様の目線に立った情報提供の方法を検討します。</p>	経営管理課	

V経営基盤の強化	V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	(V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理など) ・ある雑誌の調査によれば水道事業で100を超える市が広域化を実施・検討し、運営を民間に委ねるコンセッション方式を導入する地域も登場したとのこと。また管路更新などのため、水道料金の引き上げは避けられず、住民の理解を得るための説明責任も求められます。新潟市でも様々なケースを想定し、中長期的な視点に立った水道事業運営の議論が更に進んでいくことを希望します。	・持続可能な事業運営を進めていくことは大変厳しいものではありますが、長期的見通しをしっかりと持ち、経営状況などをお客様への確にお伝えした上で、老朽化施設の効率的更新事業の選択と集中の徹底に努めるとともに、効果的な官民連携や広域連携も視野に入れながら経営努力を重ね、着実な事業運営を図ってきたいと考えています。 なお、コンセッション方式の導入については、現時点では考えておりませんが、今後、他の事業体の動向を注視していきたいと考えています。	経営管理課
	V-2 定員・給与の適正化			
	V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	・新たな民間委託の導入に向けた調査を実施していますが、具体的には今後どのような業務委託を検討しているのでしょうか	・平成30年度は政令市の浄水場の委託状況などを調査しました。 水道局として現時点では具体的な民間委託の検討はしておりませんが、今後も業務効率化に向け、有効な委託業務について他都市の状況などを調査します。	経営管理課
	V-4 遊休資産の有効活用			
	V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施			
	V-6 水道事業経営審議会の効果的運用			
VI積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	VI-1 戦略的な広報の実施			
	VI-2 お客さまの意見・要望の把握	・お客様の意見・要望の把握方法としてアンケート、モニター以外の方法はないのでしょうか	・現時点での広聴手法としては、お客さまアンケートと水道モニター制度の運用にとどまっていますが、アンケートについては、今年度実施する「お客さま満足度調査(対象3000世帯)」のほか、各種イベントに出展するウォーターバーでのPR活動に併せて簡易的なアンケートを実施し、広聴機会の拡大に努めているところです。 ・アンケートやモニター以外の方法としては、東京都水道局がホームページ内に提案フォームを設けて事業改善のための提案募集などの取り組みを実施していますが、他都市の事例についても情報収集を進めたいと考えています。	総務課
	VI-3 分かりやすい経営情報の開示	・評価管理シートを拝見しますと「平成29年度水道会計決算の経営比較分析表をホームページで公開」との記述がございます。経営比較分析表の基本情報には「資金不足比率(%)」がございます。当該情報がホームページで未公開である理由を教えてください。	・資金不足比率は $\frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模}}$ で算出します。 よって、資金不足が生じていない場合は計算ができないため、未記入となっております。	経営管理課
	VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	・経営比較分析表のホームページ公表に伴う、アクセス数の変動などは把握していますか。時系列でホームページのページ毎のアクセス数などを把握し、ユーザーの反応を確認できないでしょうか	・市ホームページのアクセスログ解析機能を使用し、時系列でページ毎のアクセス数の把握は可能ですが、経営分析比較表の公表に伴うアクセス数の変動は把握していません。 ・アクセス数については月毎、年度毎の管理は行っていますが、ページ毎のアクセス数の変動等を分析するなどの作業は行っていません。 (参考：直近3年間のアクセス数 H28年度 380,519件 H29年度 506,768件(寒波の影響大) H30年度 399,544件)	経営管理課 総務課
VII技術・知識を有する人材の確保と育成	VII-1 人材育成と専門性の強化	・人材育成は重要であり、執行率62%は低すぎないでしょうか(十分な研修が実施されているのであれば、次年度予算を見直す必要はないのでしょうか)	・概ね必要な研修は実施されていますが、執行率の面から、次年度予算では検討が必要であると考えています。	総務課
	VII-2 諸外国との水道技術研究交流	・国際会議に参加された方からの報告会等を開いているのでしょうか	・事前の局内発表会や局報(社内報)での参加報告などで情報の共有化に努めていますが、局全体での報告会については、近年開催していませんでした。今年度は日米台水道地震対策ワークショップに職員を派遣予定であることから、帰庁後に報告会を開催し、成果などの局内共有を図り、国際交流への関心を高めたいと考えています。	総務課
VIII環境に配慮した事業運営	VIII-1 建設副産物の再利用促進			
	VIII-2 水道局環境計画の策定と推進			

その他質問・回答

質問及び意見	局回答	担当課
<p>・6/18 22時頃、山形県沖を震源とする地震があり、新潟市内も震度4が観測されました。この地震による水道施設の損傷はございましたか？ また、過去の地震における水道施設の損傷はどのような事がございましたか？ さらに、水道局が取り組む耐震化は、想定震度はどの程度なのでしょうか？</p>	<p>・山形県沖を震源とする地震による本市水道施設への被害はありませんでした。過去の地震における被害としては、新潟地震の際の導水管、送水管等の基幹管路や配水管が漏水するなど甚大な被害を受けました。その後、中越地震、中越沖地震及び東日本大震災など本市においても震度を観測しましたが、震度が小さかったため、被害はありませんでした。水道施設に求められる耐震性能は、厚生労働省令「水道施設の技術的基準を定める省令」により、発生が想定される地震動のうち最大規模の強さに対して生ずる損傷が軽微であり、機能に重大な影響を及ぼさないこととされています。本市では、発生が想定される地震動を新潟市地域防災計画において予測しており、西蒲区及び西区の一部で最大で震度7の発生を想定しております。本市水道施設は、この地震動に対して耐え得るよう耐震化を推進しています。</p>	<p>経営管理課 計画整備課</p>
<p>・現行の水道メータを覆うような形で設置することで（後付けするだけで）水使用量情報を遠隔収集できる装置が販売されています。 https://linkjapan.co.jp/product/emeter/ このメータの取り付けによって、様々な効果が得られると考えます。メーカーの掲げる利点の他、新潟市の場合、水道管凍結等による漏水発生家屋の発見が早期に可能となり、大規模断水の予防効果に結び付くと思われる。どこかの地域にて、効果の検証（実証実験）をされては如何でしょうか。これは参考意見です。</p>	<p>・ご紹介いただいた製品は、既存メーターに後付けすることでメーターをスマート化するものになります。スマートメーターは、自動検針や漏水の早期発見はもとより、管網の最適化、見守りサービスなどの様々な可能性を有していることから、本市でも取り組んでいくべき事業の一つと捉え、今年度6月にメーカーを招いての局内勉強会を開催しています。今後もスマートメーターの導入に向けて、ご紹介の製品を含め情報収集を行った中で、性能やコストを比較してより良いものを選択していきたいと考えています。この度は貴重なご意見ありがとうございました。</p>	<p>営業課</p>
<p>・浄水場の利用は、取水内訳から鑑みるととても僅かに感じられますが、その工程はいくつもの沈殿槽を経て、丁寧になされています。『Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新』という長期的な視点において、環境汚染による水質事故問題は、県内13水道事業体の連携で、ほとんど防げる見通しなのでしょうか？</p>	<p>・県内で発生した水質事故の9割近くが油流出事故となっており、その原因の多くが、事業所や個人宅における取扱い不注意で、灯油等が漏えいした事案になります。近年化学物質等による環境汚染の事案はほとんどありませんが、水源保全の観点から事故原因の大半を占める、事業所等からの油流出を防止するため、啓発用のポスターやちらしを作成し、協議会内の水道事業者を介して、各所へ配布しております。</p>	<p>浄水課 水質管理課</p>
<p>・海水遡上の時には、活性炭が多く必要になったようですが、長期運用されるべき浄水場の見通しとして、取水水質の変化はほとんどなく、安定していると考えても構わないでしょうか？</p>	<p>・これまで、取水塔まで塩水が遡上した回数は、信濃川では2回（S48,H30）、阿賀野川では6回（S59,S60,H2,H8,H14,H30）となっており、取水水質としては安定していると考えています。</p>	<p>浄水課 水質管理課</p>

施策	事業・取り組み	水道局1次評価		方向性（案）	経営審議会総評（会長案）
		効率性	有効性		
Ⅰ 水質管理の充実・強化	Ⅰ-1 水源水質の監視	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	Ⅰ-2 水安全計画の充実・適切な運用	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	Ⅰ-3 水質管理体制の強化	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	Ⅰ-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	Ⅰ-5 分かりやすい水質情報の提供	B	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。ただし、実施施策の浸透度を評価し次の施策に生かすように、PDCAサイクルを機能させること。
Ⅱ 給水装置における水質保持	Ⅱ-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	B	B	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	Ⅱ-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	B	B	維持	高い貯水槽清掃率を維持するために、引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	Ⅱ-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	B	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
Ⅲ 水道施設の計画的更新	Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新	C	C	維持	予算規模が大きく、水道システム維持の根幹であることから、引き続き計画的な更新投資とその進捗管理を実施し、計画に沿った事業推進に努めること。
	Ⅲ-2 管路施設の計画的更新	C	B	維持	予算規模が大きく、水道システム維持の根幹であることから、優先順位を定め計画的な更新投資とその進捗管理を実施し、計画に沿った事業推進に努めること。
	Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
Ⅳ 震災対策・体制の強化	Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化	—	—	—	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化	C	C	維持	予算規模が大きく、水道システム維持の根幹であることから、引き続き、計画に沿った事業推進に努めること。
	Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化	B	A	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	A	A	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。なお、各種災害時の対応や復旧体制については、マニュアル類の継続的な点検・改善や訓練の定期実施等を通して、発生時に有効に機能するように努めること。

施策	事業・取り組み	水道局1次評価		方向性(案)	経営審議会総評(会長案)
		効率性	有効性		
V経営基盤の強化	V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	V-2 定員・給与の適正化	C	B	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	V-4 遊休資産の有効活用	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	V-6 水道事業経営審議会の効果的運用	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VI積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	VI-1 戦略的な広報の実施	—	—	—	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	VI-2 お客さまの意見・要望の把握	C	D	改善・見直し	引き続き、計画に沿って事業を推進し、お客様の意見・要望の把握に努めること。
	VI-3 分かりやすい経営情報の開示	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。ただし、開示に際しては、お客様にとってのわかりやすさに対して十分に配慮すること。
	VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VII技術・知識を有する人材の確保と育成	VII-1 人材育成と専門性の強化	B	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	VII-2 諸外国との水道技術研究交流	C	A	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VIII環境に配慮した事業運営	VIII-1 建設副産物の再利用促進	C	A	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	VIII-2 水道局環境計画の策定と推進	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

施策	事業・取り組み	水道局1次評価		方向性(案)	経営審議会(事前意見)
		効率性	有効性		
I 水質管理の充実・強化	I-1 水源水質の監視	C	C	維持	年間100件程発見される水質事故が、県内13水道事業体の迅速な連絡・情報共有の賜物で、影響を未然に防げたことは心より感謝申し上げます。調査や技術研修会を共同されて、連携がさらに強化されていることに、とても安心を感じます。どうぞ連携が継続されることを願っております。
	I-2 水安全計画の充実・適切な運用	C	C	維持	
	I-3 水質管理体制の強化	C	C	維持	
	I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	C	C	維持	
	I-5 分かりやすい水質情報の提供	B	C	維持	実施施策の浸透度を評価し、次の施策に生かすように、PDCAを回してください。
II 給水装置における水質保持	II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	B	B	維持	
	II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	B	B	維持	貯水槽清掃実施率が目標を上回ったことは良い、引き続き高い清掃率をキープして下さい
	II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	B	C	維持	
III 水道施設の計画的更新	III-1 浄配水施設の計画的更新	C	C	維持	予算規模が大きく、水道システム維持の根幹であり、引き続き計画的な更新投資とその進捗管理を実施してください。
	III-2 管路施設の計画的更新	C	B	維持	管路施設の更新は重要です、引き続き計画的に実施して下さい 予算規模が大きく、水道システム維持の根幹であり、優先順位を定め計画的な更新投資とその進捗管理を実施してください。
	III-3 鉛給水管の計画的更新	C	C	維持	
IV 震災対策・体制の強化	IV-1 浄配水施設の計画的耐震化	-	-	-	
	IV-2 管路施設の計画的耐震化	C	C	維持	昨年度だけで、震度5強以上の地震が6回、今年6月には村上市で震度6強が観測されている。いつ大規模地震が発生するかわかりませんが、是非計画的に水道施設の耐震化を進めて下さい 「III-2 管路施設の計画的更新」同様
	IV-3 重要施設向け配水管の耐震化	B	A	維持	昨年度だけで、震度5強以上の地震が6回、今年6月には村上市で震度6強が観測されている。いつ大規模地震が発生するかわかりませんが、是非計画的に水道施設の耐震化を進めて下さい 計画的に事業を進めてください
	IV-4 配水管網のブロック化の推進	C	C	維持	昨年度だけで、震度5強以上の地震が6回、今年6月には村上市で震度6強が観測されている。いつ大規模地震が発生するかわかりませんが、是非計画的に水道施設の耐震化を進めて下さい
	IV-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	A	A	維持	昨年度だけで、震度5強以上の地震が6回、今年6月には村上市で震度6強が観測されている。いつ大規模地震が発生するかわかりませんが、是非計画的に水道施設の耐震化を進めて下さい
	IV-6 事故・災害時における復旧体制の強化	C	C	維持	お客様への拠点給水所の周知徹底をお願いします 災害時に備え各家庭での水の確保(備蓄水)のPRを 各種マニュアルの訓練を通じての実効性を検証することが重要です。また、多くの連携先や協力先を確保することは有効で、それに併せて災害発生時でのそれらの先をどのように有効に活用するのか十分なシミュレーションを実施し、更に充実した協力体制が構築されることを期待します。

新・マスタープラン2次評価事前意見表

施策	事業・取り組み	水道局1次評価		方向性(案)	経営審議会(事前意見)
		効率性	有効性		
V経営基盤の強化	V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	C	C	維持	
	V-2 定員・給与の適正化	C	B	維持	
	V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	C	C	維持	
	V-4 遊休資産の有効活用	C	C	維持	
	V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施	C	C	維持	
	V-6 水道事業経営審議会の効果的運用	C	C	維持	
VI積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	VI-1 戦略的な広報の実施	—	—	—	
	VI-2 お客さまの意見・要望の把握	C	D	改善・見直し	
	VI-3 分かりやすい経営情報の開示	C	C	維持	お客様に料金の仕組みを理解してもらえれば、水道事業への理解を一層得られると思います、今後もより理解してもらうような工夫をして下さい
	VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	C	C	維持	お客様が安心できるようしっかりと情報提供をお願いします
VII技術・知識を有する人材の確保と育成	VII-1 人材育成と専門性の強化	B	C	維持	技術系の人材確保は難しい中、独自採用、特別採用試験の実施等引き続き人材の確保に努めてください
	VII-2 諸外国との水道技術研究交流	C	A	維持	
VIII環境に配慮した事業運営	VIII-1 建設副産物の再利用促進	C	A	維持	
	VIII-2 水道局環境計画の策定と推進	C	C	維持	

1. **1次評価**・・・事務事業所管課(内部部局各課)・経営層による分析・評価

■ 効率性評価…当該事業・取組みが、コストに見合った結果が出ているか、実施手段が効率的であったか比較検証を行い加点し評価します。

(IV)

計画の実施状況は	予定を上回る(101%以上)	2点
	予定どおり(90%以上~100%以下)	1点
	予定を下回る(90%未満~)	0点

- ・計画の実施結果を項目ごとに加点評価し、合計を実施項目数で除したものを、事業・取組みの評価点(A)とする。
- ・指標が2つ以上の場合は、平均値(小数点第2位四捨五入)とする。

(VI)

予算 効率 率	結果(対計画) A 予算の執行率 b/a	予定を下回る (0.0~0.9点)	予定どおり (1.0~1.7点)	予定を上回る (1.8~2点)
	予定以下(~90%未満)	3点	4点	5点
	予定どおり(90%以上~100%以下)	2点	3点	4点
	予定以上(101%以上)	1点	2点	3点

- ・取り組み結果に対し、予算が効率的に執行されているか評価し加点する。
- ・シート中の【予算決算額】の執行率(b/a)と【実施結果・効果】の達成状況(A)に応じて加点する。
- ・予算執行がない場合は、予算の執行率を「予定どおり」とみなす。

作 業 効 率	結果(対計画) A 作業量(対計画) i/a	予定を下回る (0.0~0.9点)	予定どおり (1.0~1.7点)	予定を上回る (1.8~2点)
	予定以下(~90%未満)	3点	4点	5点
	予定どおり(90%以上~100%以下)	2点	3点	4点
	予定以上(101%以上)	1点	2点	3点

- ・予定した作業量に対し、効率的に取り組みが実施されたか評価し加点する。
- ・シート中の【時間・体制(人員)】の対目標(i/a)と【実施結果・効果】の達成状況(A)に応じて加点する。
- ・作業量の目標設定がない、作業量評価できないものは、作業量を「予定どおり」とみなす。

効率性が低下したやむを得ない理由がある。	1点
----------------------	----

- ・外的要因等による効率性の低下は、通常の加点の他に1点加算する。

効率性総合評価		
9~10点	A	非常に高い
7~8点	B	高い
5~6点	C	普通
3~4点	D	低い
2点	E	非常に低い

- ・各項目の加点終了後、合計点で効率性を総合評価する。

- 有効性評価…新・マスタープランで設定した重点目標等を達成するために有効であったか、期待する結果・効果（成果）は得られたか比較検証を行い加点し評価します。

(V)

(VII)

達成度 (D/B)		定量的なもの
	5点	110%超
	4点	101%以上～110%以下
	3点	90%以上～100%以下
	2点	80%以上～89%以下
	1点	～80%未満

達成度 (D/B)		定性的なもの
	3点	実施
	2点	一部実施
	1点	未実施

- ・【目標設定項目（評価指標）】の達成度（D/B）に応じて加点する。
- ・指標が2つ以上の場合は、達成度の合算の平均値（小数点以下四捨五入）とする。
- ・当該年度の評価指標の目標設定がない場合は、年次計画の事業・取組み項目を評価指標として設定できるものとする。

進捗度 (E/C)		定量的なもの
	5点	110%超
	4点	101%以上～110%以下
	3点	90%以上～100%以下
	2点	80%以上～89%以下
	1点	～80%未満

- ・【目標設定項目（評価指標）】の進捗度（E/C）に応じて加点する。
- ・定量的で進捗度が評価できないもの及び、定性的で進捗度が評価できないものは、達成度と同等の点数を加点する。
- 例：達成度が3点であれば、進捗度は3点とする。
- ・指標が2つ以上の場合は、進捗度の合算の平均値（小数点以下四捨五入）とする。

有効性が低下したやむを得ない理由がある。	1点
----------------------	----

- ・外的要因等による有効性の低下は、通常の加点の他に1点加算する。

有効性総合評価		
9～10点	A	非常に高い
7～8点	B	高い
5～6点	C	普通
3～4点	D	低い
2点	E	非常に低い

- ・各項目の加点終了後、合計点で効率性を総合評価する。

「新潟市水道局企業職員の給与の種類及び基準を定める条例」の 一部改正について

1. 改正理由

地方公務員法及び地方自治法の一部改正（令和 2 年 4 月 1 日施行）により、一般職の非常勤職員である「会計年度任用職員」制度が創設されたことから、市長事務部局に準じ、当該職員の給与にかかる規定を整備するもの。

2. 改正根拠（地方公務員法及び地方自治法の一部改正等の概要）

（1）背景

臨時・非常勤の増加に伴い、制度の趣旨に沿わない運用が見られる。

（2）法改正の内容

ア 臨時・非常勤職員の職の整理（地公法）

特別職非常勤職員	専門的な知識経験等に基づき助言、調査等を行う者
臨時的任用職員	常勤職員に欠員が生じた場合に任用する者
会計年度任用職員	新設

イ 会計年度任用職員に対し、期末手当の支給を可能とする（自治法）

3. 制度移行の概要（水道局）

※人数は平成 31 年 4 月 1 日現在

現行制度		改正後の制度
非常勤職員【特別職】	（2人）	会計年度任用職員【一般職】
臨時職員【特別職】	（9人）	

4. 会計年度任用職員制度の概要

区分	内容
任期	1 年以内（任用の日から当該会計年度の末日まで）
任用方法	公募による選考を原則とする（面接や作文等による能力実証）
勤務時間	フルタイム（週 38 時間 45 分）又はパートタイム
給料	常勤一般職員の給料表を適用（更新時に号俸加算あり）
手当	通勤手当、 地域手当 、特殊勤務手当、時間外勤務手当、休日勤務手当、夜間勤務手当、 宿日直手当 、 期末手当 、 退職手当 （一定の要件を満たすフルタイムのみ）

※**太字**は臨時職員から移行した場合に新たに支給対象となる手当

5. 条例の改正内容

会計年度任用職員に対し支給する給与の規定を整備するもの。

6. 施行期日

令和 2 年 4 月 1 日

水道法改正（更新制度導入）経緯と手数料の新設について

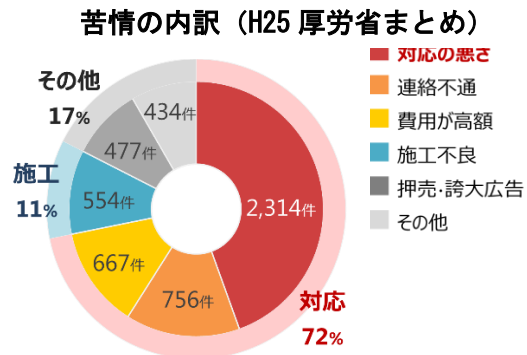
(1) 指定給水装置工事事業者制度に係る現状と課題

① 現状

- 平成 10 年の制度開始以降、工事事業者の指定数は増加
- 一度新規指定すると、その後の関与の機会がない。

② 課題

- 修繕の施工不良など技術力不足
- 苦情や違反が多い



(出典) 厚生労働省 HP

一部指定事業者の資質欠如への対応が必要

(2) 課題解決に向けた対応

- 昨年 12 月の水道法改正に伴い、指定給水装置工事事業者の更新制度導入が決定
- 工事を適正に行うための資質保持や実態とのかい離の防止を図るため、5 年の有効期間（更新サイクル）を設定

(3) 手数料の額（市議会 6 月定例会において新潟市給水条例一部改正案 可決・成立）

指定（新規・更新）手数料を 10,000 円とし、指定申込の日に徴収

(4) 運用開始日

令和元年 10 月 1 日

【参考】

新潟市指定給水装置工事事業者数
570 者（令和元年 6 月末現在）